

第122期（自平成29年4月1日 至平成30年3月31日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し、提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した確認書・内部統制報告書を末尾に綴じ込んでおります。

グンゼ株式会社

目 次

頁

第122期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	7
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	10
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	10
2 【事業等のリスク】	13
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	14
4 【経営上の重要な契約等】	18
5 【研究開発活動】	18
第3 【設備の状況】	19
1 【設備投資等の概要】	19
2 【主要な設備の状況】	19
3 【設備の新設、除却等の計画】	22
第4 【提出会社の状況】	23
1 【株式等の状況】	23
2 【自己株式の取得等の状況】	27
3 【配当政策】	29
4 【株価の推移】	29
5 【役員の状況】	30
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	34
第5 【経理の状況】	43
1 【連結財務諸表等】	44
2 【財務諸表等】	89
第6 【提出会社の株式事務の概要】	104
第7 【提出会社の参考情報】	105
1 【提出会社の親会社等の情報】	105
2 【その他の参考情報】	105
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	106

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年6月27日

【事業年度】 第122期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

【会社名】 グンゼ株式会社

【英訳名】 GUNZE LIMITED

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 廣地 厚

【本店の所在の場所】 京都府綾部市青野町膳所1番地

【電話番号】 (0773)42-3181

(注)上記は登記上の本店所在地であり、主たる本社業務は下記で行っております。

(大阪本社)

大阪市北区梅田二丁目5番25号(ハービスOSAKAオフィスタワー)

(06)6348-1312

【事務連絡者氏名】 取締役 財務経理部長 熊田 誠

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋二丁目10番4号

グンゼ株式会社 東京支社

【電話番号】 (03)3276-8710

【事務連絡者氏名】 東京支社 東京総務課長 野中 研一郎

【縦覧に供する場所】 グンゼ株式会社 大阪本社

(大阪市北区梅田二丁目5番25号(ハービスOSAKAオフィスタワー))

グンゼ株式会社 東京支社

(東京都中央区日本橋二丁目10番4号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注)グンゼ株式会社大阪本社及び東京支社は、法定の縦覧場所ではありませんが投資家の便宜のため縦覧に供しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第118期	第119期	第120期	第121期	第122期
決算年月		平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高	(百万円)	142,425	141,172	138,324	136,579	140,521
経常利益	(百万円)	5,058	4,933	791	4,671	6,446
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	(百万円)	2,508	3,215	△1,201	3,102	3,486
包括利益	(百万円)	5,326	4,884	△7,597	3,189	6,625
純資産額	(百万円)	114,183	117,359	106,639	108,353	112,129
総資産額	(百万円)	166,544	175,331	169,749	169,460	171,273
1株当たり純資産額	(円)	5,863.45	6,038.71	5,624.41	5,784.83	6,084.46
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	(円)	130.88	167.81	△63.90	165.95	189.30
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	130.05	166.57	—	164.88	188.08
自己資本比率	(%)	67.5	66.0	61.9	63.8	64.9
自己資本利益率	(%)	2.3	2.8	—	2.9	3.2
株価収益率	(倍)	20.9	19.1	—	27.4	31.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	13,753	9,512	11,775	13,832	9,007
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△5,414	△9,240	△12,046	△7,834	△5,954
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△8,303	1,726	△1,274	△4,116	△1,783
現金及び現金同等物 の期末残高	(百万円)	6,757	9,159	7,471	9,670	9,477
従業員数	(名)	7,629	7,354	6,858	7,038	6,754

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第120期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 第120期の自己資本利益率については、親会社株主に帰属する当期純損失のため記載しておりません。

4. 第120期の株価収益率については、1株当たり当期純損失のため記載しておりません。

5. 平成29年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。第118期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第118期	第119期	第120期	第121期	第122期
決算年月		平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月	平成29年 3 月	平成30年 3 月
売上高	(百万円)	110,139	108,476	108,469	106,025	107,660
経常利益	(百万円)	3,247	4,356	486	4,642	4,856
当期純利益又は当期純損失 (△)	(百万円)	1,984	2,937	△1,719	2,780	3,344
資本金	(百万円)	26,071	26,071	26,071	26,071	26,071
発行済株式総数	(株)	209,935,165	209,935,165	209,935,165	209,935,165	20,993,516
純資産額	(百万円)	109,257	112,059	103,804	106,689	109,206
総資産額	(百万円)	140,961	141,683	139,819	142,421	144,432
1株当たり純資産額	(円)	5,685.40	5,833.71	5,538.76	5,691.12	5,963.11
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額)	(円)	7.50 (—)	7.50 (—)	8.50 (—)	7.50 (—)	90.00 (—)
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	(円)	103.52	153.30	△91.43	148.73	181.60
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	102.87	152.17	—	147.78	180.43
自己資本比率	(%)	77.3	78.8	74.1	74.7	75.4
自己資本利益率	(%)	1.8	2.7	—	2.6	3.1
株価収益率	(倍)	26.5	20.9	—	30.6	33.2
配当性向	(%)	72.5	48.9	—	50.4	49.6
従業員数 (外、平均臨時雇用者数)	(名)	1,936 (404)	1,889 (356)	1,842 (324)	1,833 (350)	1,757 (335)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第120期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 第120期の自己資本利益率については、当期純損失のため記載しておりません。

4. 第120期の株価収益率及び配当性向については、1株当たり当期純損失のため記載しておりません。

5. 第120期の1株当たり配当額8.50円には、創立120年特別配当1.00円を含んでおります。

6. 平成29年10月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。第118期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

2 【沿革】

年 月	沿 革
明治29年8月	生糸の製造販売を目的として、現本店所在地(綾部)で郡是製絲株式会社を設立
昭和9年10月	塚口工場新設、絹婦人長靴下事業を開始
18年5月	商号を郡是工業株式会社に変更
12月	戦時体制のため、日本蚕糸製造(株)へ製糸17工場ほか移管
21年5月	終戦により移管工場等が復帰し、商号を郡是製絲株式会社に復元
8月	メリヤス肌着事業開始(宮津工場)
24年5月	東京・大阪・名古屋証券取引所に株式を上場
27年6月	ナイロンストッキング生産開始(本工場<平成22年12月休止>、塚口工場<昭和47年休止>)
29年6月	ミシン糸事業開始(津山工場<現 津山グンゼ(株) 連結子会社>)
33年8月	江南工場新設、合繊紡績事業開始(昭和56年撤収、平成2年エンプラ事業センター<現 エンプラ事業部>を同工場に移転)
42年2月	商号をグンゼ株式会社(現社名)に変更
43年11月	守山工場新設 プラスチックフィルム事業を強化
45年3月	九州グンゼ(株)設立(ストッキング製造、現・連結子会社)
9月	東北グンゼ(株)設立(インナーウェア製造、現・連結子会社)
48年4月	グンゼ物流(株)設立(現・連結子会社)
10月	グンゼ包装システム(株)設立(プラスチックフィルムの印刷加工・販売、現・連結子会社)
59年12月	グンゼスポーツ(株)設立(現・連結子会社)、スポーツクラブ事業開始
60年9月	グンゼ塚口開発(株)(現社名グンゼ開発(株)、現・連結子会社)が、当社塚口工場跡地に、各種商業・文化・スポーツ施設等を完成し、ショッピングセンター「つかしん」として発足(平成18年4月「グンゼ タウンセンター つかしん」としてリニューアル)
平成元年10月	新大阪造機(株)を吸収合併し、印刷・食品関係機械事業に進出
2年2月	福島プラスチックス(株)設立(プラスチックフィルム製造、現・連結子会社)
4月	Thai Gunze Co.,Ltd. 設立(インナーウェア製造販売、現・連結子会社)
3年10月	大連坤姿時装有限公司設立(インナーウェア製造販売、現・連結子会社) PT.Gunze Indonesia設立(ミシン糸製造販売、現・連結子会社)
4年10月	Gunze Plastics & Engineering Corporation of America設立(プラスチックフィルム製造販売、現・連結子会社)
7年4月	PT.Gunze Socks Indonesia設立(ソックス製造販売、現・連結子会社)
8月	Gunze (Vietnam) Co.,Ltd. 設立(インナーウェア製造販売、現・連結子会社)
10年8月	電子部品亀岡新工場完成、また生産子会社エルマ(株)設立(現・連結子会社)により、同事業を強化
11月	GGI Technology Ltd. 設立(電子部品の製造販売、平成27年清算)
12年8月	綾部エンプラ(株)設立(エンジニアリングプラスチックスの製造、現・連結子会社)
14年11月	Guan Zhi Holdings Ltd. 設立(電子部品の仕入販売、現・連結子会社)
15年1月	東莞冠智電子有限公司設立(電子部品の製造販売、現・連結子会社)
16年7月	つかしん天然温泉「湯の華廊」オープン (株)つかしんタウンクリエイト<現・連結子会社>運営)
17年12月	山東冠世針織有限公司設立(インナーウェア・ストッキング製造販売、現・連結子会社)
18年3月	郡是(上海)商貿有限公司設立(インナーウェア・ストッキング等販売、現・連結子会社)
22年3月	青島吉福包装有限公司(現社名 青島郡是新包装有限公司、プラスチックフィルムの印刷加工・販売、現・連結子会社)を出資持分取得により子会社化
22年4月	台湾郡是股份有限公司設立(電子部品の販売、現・連結子会社)
23年1月	郡是医療器材(深圳)有限公司設立(メディカル材料の製造販売、現・連結子会社)
23年9月	北京愛慕郡是服飾有限公司設立(アパレル製品等の卸売及び小売、現・連結子会社)
24年7月	Gunze United Limited設立(工業用ミシン糸製造販売)
25年11月	宇都宮事業所等で太陽光発電による売電を順次開始
27年3月	Gunze Sports (Cambodia) Co.,Ltd. 設立(スポーツクラブの運営)
28年4月	Gunze Hanoi Co.,Ltd. 設立(工業用ミシン糸製造販売)
28年4月	(株)ジーンズ・カジュアルダン(アウトターウェアの小売、現・連結子会社)、(株)伊達デパート(アウトターウェアの小売、現・連結子会社)を株式取得により子会社化
29年4月	グンゼメディカルジャパン(株)設立(メディカル材料の販売)

3 【事業の内容】

当社グループは、当社を中核として関係会社65社(子会社59社、関連会社6社)で構成され、機能資材、機械類の製造・加工・販売、インナーウェア、レッグウェア、繊維資材、テキスタイル、不動産事業及び緑化樹木の販売等を主な内容とし、更に各事業に関連する研究開発及びその他の事業活動を行っております。当社及び関係会社の当該事業に係わる位置づけ及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

(1) 機能ソリューション事業(当社、及び関係会社24社)

① 機能資材分野

当社は、プラスチックフィルム・エンジニアリングプラスチック・電子部品等の製造・販売を行っており、福島プラスチック㈱等に製造加工を委託しております。グンゼ包装システム㈱は当社プラスチックフィルム製品を仕入れて印刷加工及び販売を行い、グンゼ高分子㈱はプラスチック製品の製造及び販売を行っております。

海外では、Gunze Plastics & Engineering Corporation of America等の海外関係会社が、それぞれ現地でプラスチック製品、エンジニアリングプラスチック、電子部品の製造・加工及び販売を行っております。

② 機械類分野

当社が、印刷関係機械・食品関係機械の製造・販売を行っております。

③ メディカル材料分野

当社が、メディカル材料の製造・販売を行っているほか、郡是医療器材(深圳)有限公司等がメディカル材料の製造・販売を行っております。

(2) アパレル事業(当社、及び関係会社33社)

① 衣料品分野

当社は衣料品(インナーウェア、レッグウェア等)の製造・販売を行っており、東北グンゼ㈱等関係会社に製造加工を委託し、流通加工の多くはグンゼ物流㈱に委託しております。また、㈱ジーンズ・カジュアルダン等が国内でアウターウェアの小売・卸売販売を行っているほか、北京愛慕郡是服飾郡是有限公司等の海外関係会社が現地仕入・販売を行っております。

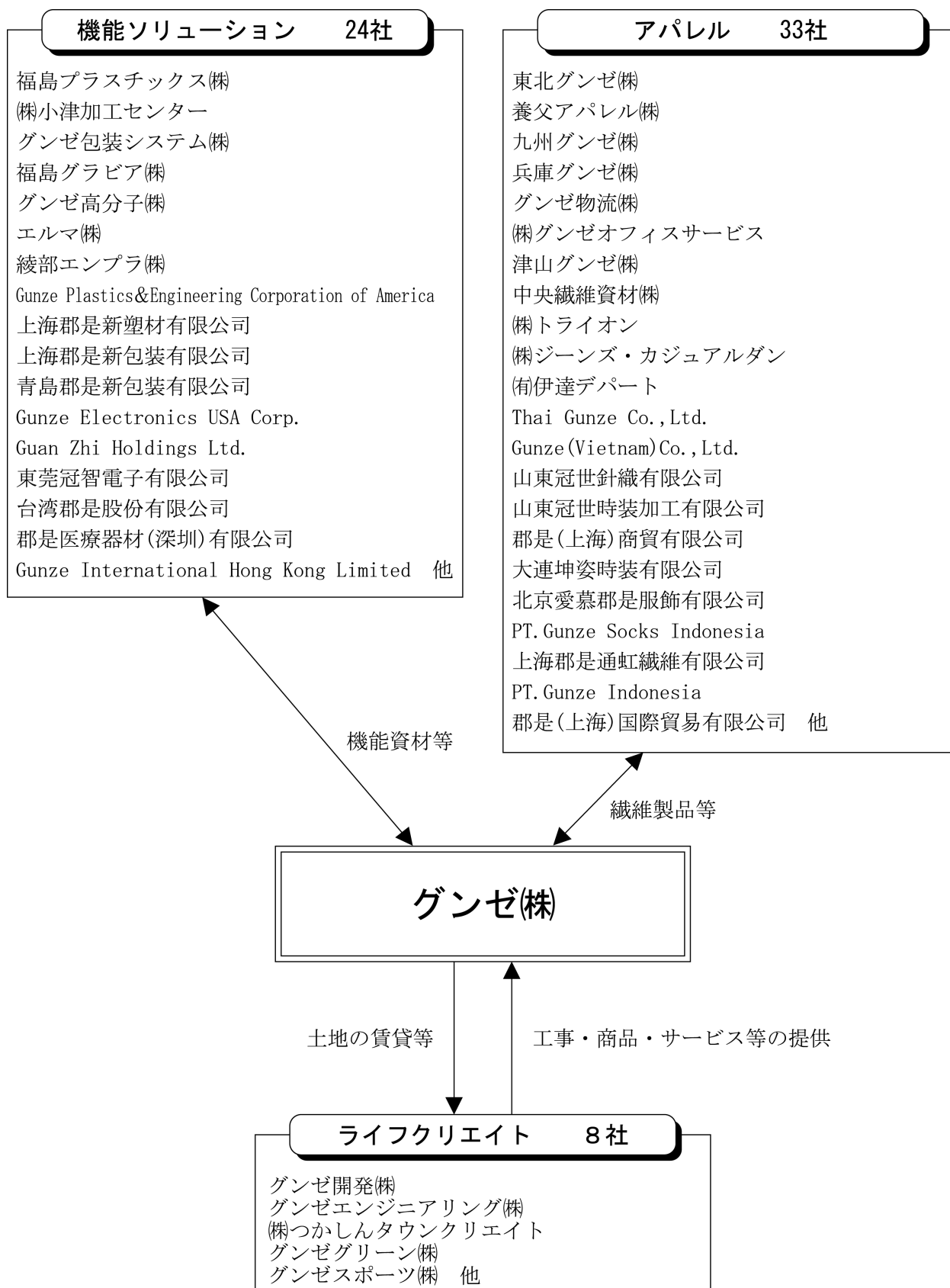
② 繊維資材及びテキスタイル分野

当社は、繊維資材(各種ミシン糸)・テキスタイル素材の製造・販売を行っており、津山グンゼ㈱に製造加工を委託し、販売の一部を中央繊維資材㈱を通じて行っております。また、PT.Gunze Indonesia等海外関係会社が現地生産及び販売を行っているほか、製品の一部を当社が仕入れております。

(3) ライフクリエイイト事業(当社、及び関係会社8社)

グンゼ開発㈱等の関係会社が、当社工場跡地の再開発計画の立案と実行並びに再開発事業の管理運営に当たるほか建築工事の請負・設計施工等を行っております。また、グンゼグリーン㈱が緑化樹木の販売を行っているほか、グンゼスポーツ㈱がスポーツクラブを運営管理しております。また、当社において太陽光発電事業を行っております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	セグメント	主要な 事業の内容	議決権 の所有 又は 被所有 割合(%)	関係内容			
						役員の 兼任等	資金援助	営業上 の取引	設備の 賃貸借
(連結子会社)									
福島プラスチック㈱	滋賀県 守山市	390	機能ソリューション	プラスチックフ ィルムの製造加 工	100	無	資金の貸付	当社製品 の製造	土地賃貸
㈱小津加工センター	滋賀県 守山市	10	機能ソリューション	プラスチックフ ィルムの流通加 工	100	無	無	当社品の 流通加工	土地建物 賃貸
グンゼ包装システム㈱	大阪市 福島区	310	機能ソリューション	プラスチック製 品の加工・販売	100	無	資金の貸付	当社製品 加工販売	建物賃貸
福島グラビア㈱ ※	大阪市 福島区	50	機能ソリューション	プラスチック製 品の加工	100 (100)	無	資金の貸付 及び 債務保証	当社製品 の加工	無
グンゼ高分子㈱	神奈川県 伊勢原市	300	機能ソリューション	プラスチック製 品の加工・販売	100	無	資金の貸付	当社製品 の販売	建物賃貸
エルマ㈱	京都府 亀岡市	35	機能ソリューション	電子部品の製造 加工	100	無	資金の貸付	当社製品 の製造	土地建物 賃貸
綾部エンブラ㈱	京都府 綾部市	50	機能ソリューション	エンジニアリン グプラスチック スの製造	100	有	無	当社製品 の製造	土地建物 賃貸
Gunze Plastics & Engineering Corporation of America	米国	千USドル 6,100	機能ソリューション	プラスチックフ ィルムの製造販 売	100	有	債務保証	当社製品 の製造	無
上海郡是新塑材有限公司	中国	千元 81,222	機能ソリューション	プラスチックフ ィルムの製造販 売	100	有	無	無	無
上海郡是新包装有限公司 ※	中国	千元 26,497	機能ソリューション	プラスチック製 品の加工・販売	93 (93)	有	無	無	無
青島郡是新包装有限公司 ※	中国	千元 61,998	機能ソリューション	プラスチック製 品の加工・販売	100 (100)	有	無	無	無
Gunze Electronics U. S. A. Corp.	米国	千USドル 3,600	機能ソリューション	電子部品の製造 販売	100	無	無	当社製品 の販売	無
Guan Zhi Holdings Ltd.	香港	千USドル 16,632	機能ソリューション	電子部品の仕入 販売	100	無	債務保証	当社製品 仕入販売	無
東莞冠智電子有限公司 ※	中国	千元 123,587	機能ソリューション	電子部品の製造 販売	100 (100)	無	債務保証	当社製品 加工販売	無
台湾郡是股份有限公司	台湾	千NTドル 2,000	機能ソリューション	電子部品の販売	100	無	無	当社製品 の販売	無
郡是医療器材(深圳)有限公司	中国	千元 16,032	機能ソリューション	メディカル材料 の製造販売	100	無	無	当社製品 仕入販売	無
Gunze International Hong Kong Limited	香港	千HKドル 2,524	機能ソリューション	当社製品の貿易 取引及びグルー プ内金融	100	無	債務保証	当社製品 仕入販売	無
東北グンゼ㈱	山形県 寒河江市	100	アパレル	インナーウェア の製造加工	100	無	無	当社製品 の製造	土地賃貸
養父アパレル㈱	兵庫県 養父市	5	アパレル	婦人インナーウ ェアの製造加工	100	無	無	当社製品 の製造	土地建物 賃貸
九州グンゼ㈱	大阪市 北区	200	アパレル	ストッキングの 製造加工	100	有	無	当社製品 の製造	土地賃貸
兵庫グンゼ㈱	兵庫県 加古川市	50	アパレル	ソックスの流通 加工	100	有	無	当社製品 の製造	土地建物 賃貸
グンゼ物流㈱	大阪市 北区	80	アパレル	流通加工・倉庫 業	100	有	無	当社品の 流通加工	土地建物 賃貸
㈱グンゼオフィスサービス ※	大阪市 中央区	12	アパレル	当社衣料品事業 の業務請負	100 (19)	有	無	業務請負	土地建物 賃貸
津山グンゼ㈱	岡山県 津山市	100	アパレル	ミシン糸の製造	100	有	資金の貸付	当社製品 の製造	土地建物 賃貸
中央繊維資材㈱	大阪市 中央区	50	アパレル	繊維資材の仕入 販売	100	有	無	当社製品 の販売	建物賃貸

名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	セグメント	主要な 事業の内容	議決権 の所有 又は 被所有 割合(%)	関係内容			
						役員 の 兼任等	資金援助	営業上 の取引	設備の 賃貸借
㈱トライオン	東京都 台東区	5	アパレル	アウターウェア の仕入販売	100	無	無	無	無
㈱ジーンズ・カジュアルダン	広島県 庄原市	10	アパレル	衣料品の小売	100	無	無	当社製品 の販売	無
(有)伊達デパート	広島県 庄原市	40	アパレル	衣料品の小売	100	無	無	無	無
Thai Gunze Co.,Ltd.	タイ	百万BAHT 180	アパレル	インナーウェア の製造加工	55	無	無	当社製品 の製造	無
Gunze (Vietnam) Co.,Ltd.	ベトナム	千USドル 6,500	アパレル	インナーウェア の製造加工	100	無	無	当社製品 の製造	無
山東冠世針織有限公司	中国	千元 125,248	アパレル	インナーウェア 及びストッキング の製造加工	100	有	無	当社製品 の製造	無
山東冠世時装加工有限公司	中国	千元 24,294	アパレル	流通加工・倉庫 業	100	有	無	当社品の 流通加工	無
郡是(上海)商貿有限公司	中国	千元 10,803	アパレル	繊維製品の仕入 販売	88	有	無	当社製品 の販売	無
大連坤姿時装有限公司	中国	704	アパレル	婦人インナーウ ェアの製造加工	100	無	無	当社製品 の製造	無
北京愛慕郡是服飾有限公司	中国	千元 63,124	アパレル	インナーウェア の仕入販売	51	有	無	無	無
PT.Gunze Socks Indonesia	インドネ シア	千USドル 10,200	アパレル	ソックスの製造 加工	95	無	債務保証	当社製品 の製造	無
上海郡是通虹繊維有限公司	中国	千元 48,292	アパレル	ミシン糸の製造 販売	100	有	無	当社製品 の製造	無
PT.Gunze Indonesia	インドネ シア	千USドル 4,500	アパレル	ミシン糸の製造 販売	96	無	債務保証	当社製品 の製造	無
郡是(上海)国際貿易有限公司 ※	中国	千元 11,897	アパレル	繊維資材の仕入 販売	100 (17)	有	無	当社製品 の販売	無
グンゼ開発㈱	兵庫県 尼崎市	250	ライフ クリエイト	住宅の建設・販 売、不動産賃貸 ・斡旋	100	無	資金の貸付 及び 債務保証	事業用地 の貸与	土地建物 賃貸
グンゼエンジニアリング㈱ ※	兵庫県 尼崎市	60	ライフ クリエイト	建築工事の請 負・設計施工	100 (100)	無	資金の貸付	当社施設 の工事・ 設計施工	建物賃貸
㈱つかしんタウンクリエイト ※	兵庫県 尼崎市	20	ライフ クリエイト	商業施設の運営	100 (100)	無	無	無	無
グンゼグリーン㈱	兵庫県 尼崎市	110	ライフ クリエイト	緑化樹木の販売	100	無	無	無	無
グンゼスポーツ㈱	兵庫県 尼崎市	80	ライフ クリエイト	スポーツクラブ の運営管理	100	無	資金の貸付 及び 債務保証	無	無

(注) ※：議決権の所有割合()内は、間接所有割合で内数であります。

(福島グラビア㈱、上海郡是新包装有限公司、青島郡是新包装有限公司の間接所有は、グンゼ包装システム
㈱によるものであります。東莞冠智電子有限公司の間接所有は、Guan Zhi Holdings Ltd.によるものであり
ます。郡是(上海)国際貿易有限公司の間接所有は、中央繊維資材㈱によるものであります。(㈱グンゼオフィ
スサービス、グンゼエンジニアリング㈱、㈱つかしんタウンクリエイトの間接所有は、グンゼ開発㈱による
ものであります。)

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
機能ソリューション事業	2,082
アパレル事業	4,181
ライフクリエイト事業	211
全社(共通)	280
合計	6,754

(注) 従業員数は就業人員を記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,757 (335)	43.2	20.5	5,660,369

セグメントの名称	従業員数(人)
機能ソリューション事業	700 (128)
アパレル事業	777 (160)
ライフクリエイト事業	— (—)
全社(共通)	280 (47)
合計	1,757 (335)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、従業員数欄の()内は臨時従業員の年間平均雇用人員を外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社及び一部の子会社には労働組合が組織されております。

なお、労使関係については、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

わが国経済は好調な企業業績に伴う設備投資の増加等、企業の前向きなマインドに底堅さが見られるものの、不安定な国際情勢や原材料価格の高騰等による景気の下振れ懸念もあり、節約志向は依然として根強く個人消費が伸び悩むなか、人手不足に伴う人件費の上昇などもあり、当社グループを取り巻く経営環境は依然予断を許さない状況が継続すると予想されます。

このような環境のなか、2018年度は中期経営計画『CAN 20（2014年度～2020年度）』の第2フェーズ（2017年度～2020年度）の2年目にあたり、主力商品・主力チャネルの成熟化に対する戦略課題に全構成員の力を結集し、更なる成長に向けた取り組みを前倒しで進めてまいります。

『CAN 20』では、ポートフォリオ戦略として、SBU（戦略的ビジネスユニット）分類評価による「選択と集中」を推進しております。また成長戦略の要として、組織横断でのCFA（クロスファンクショナルアプローチ）プロジェクトにより当社グループの経営資源を組み合わせることで効率的に新規事業を創出・育成し、QOL（クオリティ オブ ライフ）の向上に貢献する健康・医療分野などの事業拡大に取り組んでおります。また、成長戦略を支援する経営基盤強化対策として、コア技術力・グローバル対応力・コーポレートブランド価値など無形資産の強化を図っております。

加えて、株主重視の観点からROE（自己資本当期純利益率）をグループ重点指標として掲げ、収益性の向上、資本の効率化並びに自己株式の取得等により、その向上に取り組んでおります。そのために、各事業の投資効率を計る指標としてROA（総資産営業利益率）目標を事業部門・関係会社単位で設定し、売上高利益率・総資産回転率の向上に努めております。

『CAN 20』の第2フェーズでは、元来ポテンシャルを有している技術力を武器にプラスチックフィルム分野など機能ソリューション事業の成長回帰を実現し、回復基調となったアパレル事業をグループの両輪としてグループ経営を支えるとともに、メディカル分野などのQOL関連事業を成長エンジンとして、戦略目標の実現をめざします。

また、3つの基本戦略（①既存事業の再構築 ②新規事業創出 ③経営基盤強化）を加速するとともに、特に新規事業創出については、新しい芽が出やすい仕組みを作ることにより、新しい事業の開花、結実をめざしてまいります。

当社グループは、これらの取り組みを通して、当社グループの特長をいかした「ここちよさ」をお客様に提供するグローバル企業として社会に貢献してまいります。

現在、製造業を中心に経済状況の「潮目」が変わってきているなか、特にプラスチックフィルム分野及びインナーウェア分野では、当社の差異化技術を活かした付加価値商品の商品優位性が市場で評価されております。引き続き差異化商品開発の強化・拡販と生産革新による収益性向上に全社で取り組んでまいります。

機能ソリューション事業では、プラスチックフィルム分野は業績が拡大しているなか、新市場・新商品の開発とグローバル生産体制を更に強化いたします。エンジニアリングプラスチックス分野は主力OA市場向け商品及び半導体関連等繊維技術活用製品の拡大を図ります。また、電子部品分野は社内のフィルム関連事業分野とのシナジー効果を追求し事業採算化を進めます。メディカル分野は更なる成長に向けて国内新販売体制をスタートするとともに新工場を含めたグローバルな事業運営体制の充実拡大を目指します。

アパレル事業では、インナーウェア分野はオリジナル差異化技術を強みに主力ブランドの更なる拡販を図るとともに成長チャネルであるEC・SPAルートと海外販売を強化してまいります。レグウェア分野は市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした新市場・新商品の開発等を進めます。

ライフクリエイト事業では、不動産分野では新規賃貸事業の推進及び商業施設運営体制の見直しにより収益力の向上を図ります。スポーツクラブ分野においては、海外を含む多店舗展開による売上拡大と効率運営を目指します。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

当社は「会社の支配に関する基本方針」を定めており、その内容は以下の通りであります。

会社の支配に関する基本方針

(1) 基本方針の内容

当社グループは、「品質第一」と「技術立社」を基盤に、創業の精神である「人間尊重」、「優良品の提供」、「共存共栄」を企業理念として顧客起点の事業運営を行っております。この理念の下、企業の社会的責任（CSR）に積極的に取り組むとともに、各事業の商品、サービスを通して「お客さまに“こちよさ”をお届けしていく」という強い意思をもち、「社会にとって必要とされる企業」「社会とともに持続発展する企業」を目指しております。また、当社グループは、企業価値向上を目指し、株主重視の経営姿勢を堅持していくことを基本に、収益性の向上、資本の効率化に取り組むとともに、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、配当金支払い・自己株式取得等を通じて、中長期的な業績見通しに基づいた、安定的・継続的な利益還元を図っております。

一方、当社の株主のあり方については、当社株式の自由な取引を通じて決定されるものであると考えており、会社の支配権の移転を伴う買収提案がなされた場合に、これに応じるか否かの判断も、最終的には株主の皆様の意思に委ねられるべきものと考えております。

しかしながら、上記のような取り組みを通して、企業価値・株主共同の利益の持続的な向上を図るためには、株主の皆様はもとより、お客様・取引先・従業員・地域社会等のステークホルダーとの適切な関係を維持し、発展させていくことが重要であり、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の財務及び事業の内容や当社の企業価値の源泉を十分に理解し、ステークホルダーの利益にも十分配慮した経営を行うことが可能な者である必要があると考えております。

従って、当社グループの企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を毀損する恐れのある大量買付行為又はこれに類似する行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような買付行為に対しては、必要かつ相当な対抗措置を採ることにより、当社グループの企業価値及び会社の利益ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えております。

(2) 基本方針の実現に資する取り組み

当社は、基本方針の実現に資する取り組みとして以下の施策を実施し、当社グループの企業価値及び株主共同の利益の向上に努めております。

①中期経営計画の推進

当社グループは、中期経営計画（CAN20計画：第119期～第125期）を展開しており、『集中と結集』をキーコンセプトに、「SBU（戦略的ビジネスユニット）戦略による既存事業の選択と集中」、「CFA（クロスファンクショナルアプローチ）活動による成長・新規事業の育成・創出」、「成長戦略を支援する経営基盤強化」を基本戦略として、企業価値の向上を図っていくこととしております。

また、株主重視の観点からROE（自己資本当期純利益率）をグループ重点指標として掲げ、収益性の向上、資本の効率化並びに自己株式の取得等により、その向上に取り組んでまいります。そのために、各事業の投資効率を計る指標としてROA（総資産営業利益率）目標を事業部門・関係会社単位で設定し、売上高利益率・総資産回転率の向上に努めてまいります。

②コーポレートガバナンスの強化

当社は、意思決定の迅速化、経営監督機能の強化を図るため、第110期（平成17年度）に執行役員制度の導入、取締役員数の削減を行うとともに、取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制とするため、第111期（平成18年度）に取締役任期を2年から1年に変更し、併せて経営の透明性の確保を図るため社外取締役の選任を行うなど、コーポレートガバナンスの強化に努めております。

なお、平成27年12月18日開催の取締役会において、当社グループのコーポレートガバナンスに関する基本方針として、「グンゼ コーポレートガバナンス・ガイドライン」を制定いたしました。その内容は、以下の当社ホームページに掲載しております。

<http://www.gunze.co.jp/ir/policy/governance/index.html>

(3) 不適切な支配の防止のための取り組み

当社は、当社株式の大量取得行為を行おうとする者に対しては、大量取得行為の是非を株主の皆様が適切に判断するための必要かつ十分な情報の提供を求め、大量取得行為の是非を株主の皆様が適切に判断するための時間の確保に努めるなど、金融商品取引法、会社法その他関係法令の許容する範囲内において、適切な措置を講じてまいります。

(4) 上記取り組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社取締役会は、これらの取り組みが、当社の支配の基本方針に沿うものであり、企業価値・株主共同の利益を損なうものではなく、また取締役の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、財政状態等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 品質管理について

当社グループは「品質第一主義 優良品の提供」を事業の根幹に置き、より安心で、より快適な、魅力ある商品とサービスの提供のために、徹底した安全性と品質の確認を実施しておりますが、予想を超える重大な品質トラブルが発生した場合には、該当する商品のみならず、当社グループの製品全体の評価にも重大な影響を与え、売上の低下によって、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 消費者の嗜好の変化について

当社グループの衣料品事業は、消費者の嗜好及び需要の変化に的確に対応するために、SCMの構築・カテゴリチェンジ（品種構成の革新）などに取り組んでおりますが、消費者の嗜好及び需要は急激に変化することから、市場動向の判断を誤った場合は売上高の減少・在庫の増加などにより、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

(3) 天候不順について

当社グループの事業は、シーズン商品の販売が多いことから、冷夏・暖冬等の天候不順が発生した場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

(4) 原材料価格の変動について

当社グループの製品は、原糸・綿糸・プラスチック樹脂等を主たる原材料としており、原材料価格は市況により変動しております。原材料価格の高騰は原価高に繋がり、製品価格に転嫁できない場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

(5) 情報管理について

当社グループは、事業遂行に関連して、個人情報をはじめとする多数の重要情報を管理しております。これらの情報については、情報システムに対するセキュリティ管理、情報管理に関する従業員への教育、外部委託先との機密保持契約などを行い、その管理に万全を期しておりますが、予期せぬ事態により重要情報が漏えいしたり、不正使用された場合、当社グループの社会的信用に影響を与え、更には損害賠償責任の発生等により、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(6) 自然災害及び感染症の発生について

当社グループは、国内外に生産工場等の事業所を配置しております。大規模な地震や台風、洪水等の自然災害及び新型インフルエンザ等の感染症の発生により、生産活動や販売活動などに支障をきたした場合は、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(7) 海外事業について

当社グループの海外事業は、現地における政変や社会・経済情勢、テロや戦争、知的財産権訴訟、疾病といったリスクを内在しております。このような問題が顕在化したときは事業活動の継続が困難になることがあるため、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

(8) 為替相場の変動について

当社グループの取引には外貨による輸出・輸入が含まれております。そのため為替予約等により為替相場の変動リスクをヘッジしておりますが、そのリスクを全て排除することは不可能であり、当社グループの経営成績及び財政状態に少なからず影響を与える可能性があります。

(9) 株式等の時価変動について

当社グループは営業活動・業務提携等の一環として、一部の取引先について株式を所有しております。当該株式の多くは上場株式であり、株式市場の下落等により、当社グループの経営成績及び財政状態に少なからず影響を与える可能性があります。

(10) 退職給付債務について

当社グループの退職給付制度は、一部を除いて確定給付型制度を採用しております。退職給付債務については安全性の高い長期の債券の利回りを基準とした割引率に基づいて算定しており、金利の変動は退職給付債務に影響を与えません。また、確定給付型年金制度における年金資産はその一部を株式等のリスク資産に投資しており、株式市場の下落等により、その運用利回りは悪化する可能性があります。このように長期金利の変動及び株式市場の下落等運用環境の悪化は、当社グループの経営成績及び財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は以下のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠して作成しております。この作成において見積りが必要となる事項については、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。当社グループの連結財務諸表で採用している重要な会計方針は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

(2) 経営成績

当期のわが国経済は、企業業績や雇用環境の改善が続き全体としては緩やかな回復基調にあるものの、欧米の政治的リスクやアジアの地政学的リスク、資源価格の上昇、新興国経済の不確実性、株式・為替市場の相場変動等により、先行き不透明な経営環境が続きました。

このような状況において、当社グループでは、中期経営計画「CAN20計画第2フェーズ（2017年度～2020年度）」の初年度にあたり、『集中と結集』をキーコンセプトに、「セグメント別事業戦略」「新規事業創出」「経営基盤強化」の3つの基本戦略への取り組みを進めました。

機能ソリューション事業は、電子部品分野が事業のダウンサイジング化により減収となったもののプラスチックフィルム分野及びエンジニアリングプラスチックス分野が好調に推移しました。アパレル事業は、差異化商品の拡販と成長販路への取り組みを強化し堅調に推移しました。

その結果、当連結会計年度の売上高は140,521百万円（前年同期比2.9%増）、営業利益は6,239百万円（前年同期比48.3%増）、経常利益は6,446百万円（前年同期比38.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は3,486百万円（前年同期比12.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

機能ソリューション事業

プラスチックフィルム分野は、主力のシュリンクフィルムが国内・輸出とも順調に推移し、軟包装や工業用途も好調でした。エンジニアリングプラスチックス分野は、半導体市場向けの牽引とOA機器向けの復調により好調に推移しました。メディカル分野は、中国向け縫合補強材及び新商品「デュラウエーブ」が好調でしたが、販売体制強化費用等の増加や主力得意先の在庫調整の影響を受けました。

以上の結果、機能ソリューション事業の売上高は50,828百万円（前年同期比1.3%増）、営業利益は5,381百万円（前年同期比55.2%増）となりました。

アパレル事業

インナーウェア分野は、「完全無縫製」を中心としたレディスインナーと「カットオフ」などの差異化商品ブランド及びスポーツカテゴリー商品並びにEC・SPA等の成長チャネル拡販により順調に推移しました。レッグウェア分野はタイツや防寒商品等は健闘したものの、年間物のストックキングとソックスが苦戦しました。

以上の結果、アパレル事業の売上高は74,012百万円（前年同期比3.3%増）、営業利益は2,628百万円（前年同期比4.9%増）となりました。

ライフクリエイト事業

不動産関連分野では、ショッピングセンター事業は地域に密着した運営により堅調に推移し、また賃貸事業は新規物件が貢献しました。スポーツクラブ分野は、既存店の活性化やコストダウン対策等により新店の初期費用影響を吸収しました。

以上の結果、ライフクリエイト事業の売上高は16,122百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益は1,386百万円（前年同期比4.8%増）となりました。

(3) 財政状態

総資産は171,273百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,813百万円増加しました。主な増加要因は、時価の上昇等による投資有価証券の増加3,398百万円、金融機関の期末休日影響額1,164百万円を含む受取手形及び売掛金の増加2,471百万円であり、主な減少要因は、投資その他の資産の繰延税金資産の減少1,924百万円、主に機能ソリューション事業での機械装置及び運搬具の減少1,067百万円・建物及び構築物の減少969百万円であります。

負債は59,143百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,963百万円減少しました。主な減少要因は、為替予約の減少1,250百万円など流動負債「その他」の減少1,018百万円、未払法人税等の減少973百万円であります。

純資産は112,129百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,776百万円増加しました。主な増加要因は、親会社株主に帰属する当期純利益3,486百万円、その他有価証券評価差額金の増加2,774百万円であり、主な減少要因は、配当による減少1,402百万円、自己株式の取得による減少2,194百万円（「グンゼグループ従業員持株会専用信託」による取得を含む）であります。

セグメントごとの資産は、次のとおりであります。

機能ソリューション事業のセグメント資産は46,637百万円となり、前連結会計年度末に比べ461百万円減少しました。主な減少要因は、減価償却による機械装置及び運搬具の減少等であります。

アパレル事業のセグメント資産は57,479百万円となり、前連結会計年度末に比べ640百万円増加しました。主な増加要因は金融機関の期末休日影響等による受取手形及び売掛金の増加等であります。

ライフクリエイト事業のセグメント資産は34,043百万円となり、前連結会計年度末に比べ357百万円増加しました。主な増加要因はスポーツクラブ分野のリース資産の増加等であります。

また、各報告セグメントに配分していない全社資産の調整額は33,113百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,276百万円増加しました。主な増加要因は時価上昇による投資有価証券の増加等であります。

(4) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標の達成状況

当社は、株主重視の観点からROE（自己資本当期純利益率）をグループ重点指標として掲げ、収益性の向上、資本の効率化並びに自己株式の取得等により、その向上に取り組んでおります。そのために、各事業の投資効率を計る指標としてROA（総資産営業利益率）目標を事業部門・関係会社単位で設定し、売上高利益率・総資産回転率の向上に努めております。

当連結会計年度は、機能ソリューション事業のプラスチック分野において主力のシュリンクフィルムが国内・輸出とも順調に推移したことや電子部品分野の事業構造改善等により、ROEは3.2%（前年同期2.9%）、ROAは3.7%（前年同期2.5%）と改善しました。

(4) キャッシュ・フロー

① キャッシュ・フローの状況及び分析

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ193百万円減少し、9,477百万円となりました。当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況と主な要因は次のとおりであります。

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比較して4,825百万円減少し、9,007百万円となりました。主なキャッシュ・インの要因は税金等調整前当期純利益5,275百万円、減価償却費6,455百万円であり、主なキャッシュ・アウトの要因は期末日が金融機関の休日となった影響を含む売上債権の増加2,430百万円であります。

投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比較して1,879百万円減少し、5,954百万円となりました。主なキャッシュ・アウトの要因はメディカル事業の設備投資など固定資産の取得による支出5,333百万円であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比較して2,332百万円増加し、1,783百万円の支出となりました。主なキャッシュ・インの要因は長期借入れによる収入6,456百万円、コマーシャル・ペーパーによる収入2,000百万円であり、主なキャッシュ・アウトの要因は長期借入金の返済による支出6,934百万円、自己株式の取得による支出2,097百万円、配当金の支払い1,399百万円であります。

② 資本の財源及び資金の流動性に係る事項

当社グループにおける設備投資及び株主還元等のための資金は、営業活動によるキャッシュ・フロー及び自己資金を充当しているほか、将来の経営環境や財務基盤の健全性を考慮した上で、長短借入金による調達を行っております。当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況及び分析は「①キャッシュ・フローの状況及び分析」に記載のとおりであり、次期については、当連結会計年度を上回る設備投資を予定しておりますが、主として営業活動によるキャッシュ・フロー及び自己資金により調達する予定であります。

資金の流動性については国内において当社を中心とするCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）により資金集約化を実施しているほか、海外ではプーリング取引によりグループ内の資金効率向上に取り組んでおります。なお、機動的かつ安定的な資金調達手段を確保するため、取引銀行との間で協調融資型特定融資枠契約（コミットメントライン契約）を締結しております。

(生産、受注及び販売の実績)

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前期比(%)
機能ソリューション事業	35,588	△3.6
アパレル事業	44,242	1.1
合計	79,831	△1.1

(注) 1. 上記金額は、製造原価ベースで表示しており、外注生産高を含んでおります。

2. 上記生産実績以外に、下記の商品仕入高があります。

セグメントの名称	仕入高(百万円)	前期比(%)
機能ソリューション事業	280	△8.1
アパレル事業	7,687	2.4
ライフクリエイイト事業	2,567	△3.8
合計	10,535	0.5

3. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当社及び連結子会社は、機能ソリューション事業に含まれる機械類を除き、原則として見込生産であります。

機能ソリューション事業に含まれる機械類の受注高、受注残高は下記のとおりであります。

区分	受注高(百万円)	前期比(%)	受注残高(百万円)	前期比(%)
機能ソリューション事業に含まれる機械類	3,352	10.9	1,100	58.8

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前期比(%)
機能ソリューション事業	50,828	1.3
アパレル事業	74,012	3.3
ライフクリエイイト事業	16,122	6.3
小計	140,964	2.9
内部売上控除	△442	—
合計	140,521	2.9

(注) 1. 販売実績の総販売実績に対する割合が100分の10を超える販売先はありません。

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

4 【経営上の重要な契約等】

(重要な賃貸契約)

契約会社名	相手先	契約内容	期限
グンゼ開発㈱	㈱平和堂	グンゼタウンセンター「つかしん」に建設した商業施設の賃貸	平成38年4月

(特定融資枠契約)

当社は、機動的かつ安定的な資金調達手段の確保を目的として、平成29年12月に取引銀行3行と協調融資型特定融資枠契約を締結しております（特定融資枠の額：50億円、契約期限：平成30年12月）。

5 【研究開発活動】

当社グループは、プラスチックフィルム、エンジニアリングプラスチック、電子部品、機械、メディカル材料、インナーウェア・レグウェア等衣料品、繊維資材等の事業活動を展開しており、当社の研究開発部及びQOL研究所は、これらを支援する研究開発活動として、既存事業分野の新規付加価値商品の開発及び生産技術革新等の事業部門サポート、並びに新規事業創出に向けた技術開発や基礎研究に取り組んでおります。また、研究成果の知財権利化を進め、事業基盤強化を図っております。

当連結会計年度における研究開発費は3,000百万円であります。セグメントの主な研究開発活動及び研究開発費の金額は次のとおりであります。

(1) 機能ソリューション事業

プラスチックフィルム分野では、コア技術である多層押出技術に、機能性を付与する新たな技術を融合させることで、包装材料における高付加価値化や新規分野への展開を目指した取り組みを進めております。

エンジニアリングプラスチック分野では、複写機・プリンター用機能性ベルトで培ったファイラー分散技術を生かした高機能部材研究や、フッ素樹脂の特性を生かした医療用具向け製品で、産業資材への展開を進めております。

電子部品分野では、ウェット/ドライの薄膜形成技術や基材フィルム製造技術などを組み合わせ、次世代ディスプレイ周辺に使用される電極フィルムや各種機能フィルムの開発を進めております。

また、各事業部門の生産工程革新につながる製造技術・装置の研究開発に加え、新機能性商品に関するオリジナル製造装置の研究開発に取り組んでおります

メディカル分野では、生体内吸収性高分子の機能を生かした医療材料の開発、医療材料と同時に使用する医療デバイスの開発に取り組んでおります。また、米国での細胞を用いた人工血管の臨床研究や大量培養に適した基材等再生医療に貢献する製品開発を進めています。

新規事業分野では、機能ソリューションの各事業が持つ技術をベースに新たな提供価値を創造する高機能フィルムの開発を積極的に推進しております。今後とも社内保有技術の更なる活用と新市場創出を目指す取り組みに注力してまいります。

当該セグメントに係る研究開発費は2,434百万円であります。

(2) アパレル事業

衣料品分野では、「お客さまのためのこちよさの追求」をキーワードに、人の生理学的研究とこれまで蓄積した多くの繊維加工技術を活かした快適インナーの開発を進めております。また、無縫製商品群の拡大を継続的に推進する為に、独自に開発した接着縫製技術を更に進化させるべく取り組んでおります。

更に、衣料製品の技術を活用して医療に貢献するメディカル衣料（衣療）プロジェクトは、様々なニーズに対応し手術後患者様等のQOL向上に貢献すべく取り組んでおります。

また従来のアパレル商品の快適性・品質・安全性評価に加え、インナーウェア等は、培養皮膚キットを用いた化学的刺激について安全性評価も行っており、より安全・安心・快適な商品開発に努めております。

当該セグメントに係る研究開発費は566百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、高機能・高付加価値商品の生産並びに合理化・省力化や賃貸住宅等不動産の取得を中心に総額5,536百万円の投資を実施しました。主な内容・目的は次のとおりです。

機能ソリューション事業においては、プラスチックフィルム生産設備及びメディカル分野新工場を中心に合計1,991百万円の投資を実施しました。

アパレル事業においては、当社におけるインナーウェア及びレグウェア生産設備の生産能力増強・省力化を中心に1,176百万円の投資を実施しました。

ライフクリエイト事業においては、賃貸住宅376百万円、スポーツクラブ店舗用リース資産268百万円を中心に合計1,040百万円の投資を実施しました。

また、本社部門において基幹システム、社宅建替え、研究開発用設備の導入等、1,327百万円の投資を実施しました。

なお、生産能力に重大な影響を及ぼすような固定資産の売却、撤去又は減失はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループ(当社及び連結子会社)における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	設備の種類別の帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	リース 資産		合計
守山工場(注3) (滋賀県守山市)	機能ソリューション	プラスチックフィルム生産設備	1,089	1,240	68	206 (73)	—	2,604	179
亀岡工場 (京都府亀岡市)	〃	電子部品生産設備	1,401	280	29	20 (45)	—	1,731	23
江南工場 (愛知県江南市)	〃	エンジニアリングプラスチック生産設備	1,148	709	38	20 (101)	—	1,916	180
メカトロ事業部 (大阪府茨木市)	〃	印刷・食品関係機械生産設備	118	65	9	161 (14)	—	355	93
メディカル事業部 (注3)(京都府綾部市)	〃	メディカル材料生産設備	896	340	82	— (—)	—	1,320	107
綾部工場(注3) (京都府綾部市)	機能ソリューション他	エンジニアリングプラスチック生産設備等	62	131	2	517 (190)	—	714	11
宮津工場 (京都府宮津市)	アパレル	インナーウェア生産設備	237	188	11	173 (53)	—	609	153
梁瀬工場 (兵庫県朝来市)	〃	〃	592	397	8	75 (77)	—	1,073	97
久世工場 (岡山県真庭市)	〃	〃	143	7	0	70 (62)	—	221	43
津山工場 (岡山県津山市)	〃	ミシン糸生産設備	290	90	6	54 (53)	6	448	4
宇都宮発電所 (栃木県下野市) ほか2事業所	ライフクリエイト	太陽光発電設備	37	839	2	149 (15)	—	1,028	—
綾部本社(注3) (京都府綾部市)	全社管理	その他設備	1,184	28	25	— (—)	—	1,237	12
東京支社(注4) (東京都中央区ほか)	全社管理・販売等	〃	805	0	18	501 (6)	—	1,325	274
大阪本社(注4) (大阪市北区ほか)	〃	〃	1,397	21	624	307 (11)	—	2,351	432
研究開発部(注3) (綾部市・守山市)	全社研究・開発等	〃	405	349	100	— (—)	—	855	149
その他(注5)	—	貸与資産等	1,681	58	4	5,739 (744)	—	7,483	—
合計			11,490	4,750	1,031	7,999 (1,450)	6	25,278	1,757

(2) 国内子会社

平成30年3月31日現在

会社名 (事業所所在地)	セグメント の名称	設備の内容	設備の種類別の帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	リース 資産		合計
福島プラスチック㈱ (注6)(福島県本宮市)	機能ソリューション	プラスチックフ ィルム生産設備	1,230	1,099	22	— [108]	—	2,352	103
グンゼ包装システム㈱ (滋賀県守山市)	〃	プラスチックフ ィルム印刷加工 設備	292	146	6	93 (14)	—	538	115
福島グラビア (福島県本宮市)	〃	プラスチックフ ィルム印刷加工 設備	198	191	2	—	—	393	41
グンゼ高分子㈱ (神奈川県伊勢原市)	〃	プラスチックフ ィルム他生産設 備	182	262	4	436 (12)	—	885	50
綾部エンブラ㈱(注6) (京都府綾部市)	〃	エンジニアリン グプラスチック ス生産設備	46	63	2	— [15]	—	112	50
東北グンゼ㈱(注6) (山形県寒河江市)	アパレル	インナーウエ ア生産設備	134	197	7	357 (64) [21]	—	697	127
九州グンゼ㈱(注6) (宮崎県小林市)	〃	レッグウエ ア生産設備	239	386	40	— [68]	—	666	182
グンゼ開発㈱(注6) (つかしん(兵庫県尼崎市) ほか)	ライフ クリエイト	賃貸用不動産等	18,781	28	82	3,529 (39) [208]	—	22,421	21
グンゼスポーツ㈱ (兵庫県尼崎市ほか)	〃	スポーツクラブ 施設	2,988	1	23	— <12>	584	3,597	130

(3) 在外子会社

平成30年3月31日現在

会社名 (事業所所在地)	セグメント の名称	設備の内容	設備の種類別の帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)	
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	リース 資産		合計
Gunze Plastics & Engineering Corporation of America(米国)	機能ソリューション	プラスチックフ ィルム生産設備	1,413	862	3	72 (48)	—	2,351	45
上海郡是新包装有限公司 (中国)(注6)	〃	プラスチックフ ィルム印刷加工 設備	—	121	4	— <6>	—	125	96
青島郡是新包装有限公司 (中国)(注6)	〃	〃	175	116	6	— <27>	—	298	53
上海郡是新塑材有限公司 (中国)(注6)	〃	プラスチックフ ィルム生産設備	379	432	36	— <20>	—	849	50
Gunze Electronics U.S.A Corp.(米国)	〃	電子部品生産設 備	382	94	—	100 (11)	—	577	37
東莞冠智電子有限公司 (中国)	〃	〃	58	199	10	—	—	268	609
郡是医療器材(深圳)有限 公司(中国)	〃	メディカル材料 生産設備	107	35	70	—	—	212	26
大連坤姿時裝有限公司 (中国)(注6)	アパレル	インナーウエ ア生産設備	68	31	0	— <23>	—	100	196
Gunze(Vietnam)Co.,Ltd. (ベトナム)(注6)	〃	〃	207	250	25	— <15>	—	483	665
Thai Gunze Co.,Ltd. (タイ)	〃	〃	62	70	43	46 (50)	—	222	273
山東冠世針織有限公司 (中国)(注6)	〃	インナーウエ ア及びレッグウ エア生産設備	53	485	14	— <72>	—	553	677
PT.Gunze Socks Indonesia (インドネシア)	〃	レッグウエ ア生産設備	115	155	3	155 (23)	—	429	240
PT.Gunze Indonesia (インドネシア)	〃	合繊ミシン糸 生産設備	83	142	10	73 (12)	—	309	253
上海郡是通虹纖維有限公 司(中国)(注6)	〃	〃	52	216	11	— <8>	—	280	205

- (注) 1. 帳簿価額欄は、有形固定資産(建設仮勘定を除く)を記載しております。
2. 118期以降に取得した社宅厚生設備には控除対象外消費税額等を含めておりますが、それ以外の設備には、消費税等は含まれておりません。
3. 守山工場の土地には、研究開発部(守山)を、綾部工場の土地には、エンブラ事業部、メディカル事業部、綾部本社、研究開発部(綾部)をそれぞれ含めて表示しております。
4. 福利厚生施設を含んでおります。
5. このうち、土地516千㎡を連結子会社に賃貸しており、73千㎡を連結子会社以外に賃貸しております。
6. 土地欄の[]内には、提出会社からの賃借面積を、〈 〉内には連結会社以外からの賃借面積を外書しております。
7. 上表設備のほかに、建物(当社大阪本社事務所ほか)2千㎡を賃借しております。
8. 従業員数には、臨時従業員は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当社グループ(当社及び連結子会社)における重要な設備投資計画の内訳は下記のとおりであります。

[提出会社]

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金 調達方法	着手 年月	完成予定 年月	完成後の 増加能力
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
アパレルカンパニー (ゲンゼ物流(株)貸与資産 山梨県南アルプス市)	アパレル	物流倉庫設備	204	—	自己資金及び 借入金	H30.6	H31.3	—
アパレルカンパニー (大阪市北区)	アパレル	基幹系システム	124	76	〃	H29.6	H30.6	—
宮津工場 (京都府宮津市)	アパレル	インナーウェア 生産設備	120	13	〃	H29.3	H30.5	—
大阪本社 (大阪市北区ほか)	全社	社宅建物	440	—	〃	H30.4	H30.12	—

(注) 社宅厚生設備を除く上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

[連結子会社]

会社名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金 調達方法	着手 年月	完成予定 年月	完成後の 増加能力
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
福島プラスチック㈱ (福島県本宮市)	機能 ソリューション	プラスチック フィルム生産設備	107	—	自己資金及び 借入金	H30.1	H31.1	—
ゲンゼ開発㈱ (兵庫県尼崎市)	ライフ クリエイト	住宅開発	182	3	〃	H29.11	H30.10	—
ゲンゼ開発㈱ (兵庫県尼崎市)	ライフ クリエイト	商業施設開発	1,167	28	〃	H30.04	H31.03	—
ゲンゼスポーツ㈱ (兵庫県尼崎市)	ライフ クリエイト	スポーツクラブ 新店舗開発	830	15	〃	H29.11	H31.03	—

(注) 上記賃貸住宅金額には、消費税等が含まれております。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

(注) 平成29年6月23日開催の第121期定時株主総会の決議により、平成29年10月1日付で株式会社併合に伴う定款の変更が行われ、発行可能株式総数は450,000,000株減少し50,000,000株となっております。

② 【発行済株式】

種類	事業年度末 現在発行数(株) (平成30年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	20,993,516	20,993,516	東京証券取引所市場第一部	単元株式数は100株で あります。
計	20,993,516	20,993,516	—	—

(注) 平成29年6月23日開催の第121期定時株主総会の決議により、平成29年10月1日付で株式会社併合（10株を1株に併合）及び単元株式数の変更（1,000株を100株に変更）を行っております。これにより発行済株式総数は188,941,649株減少し、20,993,516株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

ストックオプション制度の内容は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項」の（ストック・オプション等関係）に記載しております。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日 (注)	△188,941,649	20,993,516	—	26,071	—	6,566

(注) 株式併合 (10:1) によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	3	45	20	171	154	7	18,925	19,325	—
所有株式数 (単元)	4	77,371	1,098	19,681	35,761	21	74,698	208,634	130,116
所有株式数 の割合(%)	0.00	37.09	0.53	9.43	17.14	0.01	35.80	100.00	—

(注) 自己株式2,614,823株は、「個人その他」に26,148単元、及び「単元未満株式の状況」に23株を含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有 株式数 (千株)	発行済株式(自 己株式を除 く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	3,632	19.77
日本マスタートラスト信託銀行(株)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	675	3.67
(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内三丁目7番1号	613	3.34
(株)京都銀行	京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地	587	3.20
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行(株))	388 GREENWICH STREET, NY, NY10013, USA (東京都新宿区新宿六丁目27番30号)	448	2.44
資産管理サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	438	2.38
第一生命保険(株)	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	414	2.25
損害保険ジャパン日本興亜(株)	東京都新宿区西新宿一丁目26番1号	306	1.67
グンゼグループ従業員持株会	大阪府大阪市北区梅田二丁目5番25号	305	1.66
(株)GSIクレオス	東京都千代田区九段南二丁目3番1号	271	1.48
計	—	7,692	41.86

(注) 1. 平成29年10月1日付で10株を1株とする株式併合を行っております。

2. 上記のほか当社所有の自己株式2,614千株があります。

なお、自己株式にはグンゼグループ従業員持株会専用信託が所有する当社株式を含めておりません。

3. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 3,632千株

日本マスタートラスト信託銀行(株) 675 "

資産管理サービス信託銀行(株) 438 "

第一生命保険(株) 0.8 "

4. (株)三菱東京UFJ銀行は平成30年4月1日付で(株)三菱UFJ銀行に商号変更されております。

5. 平成30年2月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、(株)みずほ銀行及びその共同保有者である他3社が平成30年1月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成30年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
(株)みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	220	1.05
みずほ証券(株)	東京都千代田区大手町一丁目5番1号	32	0.16
アセットマネジメントOne(株)	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	1,033	4.92
アセットマネジメントOne インターナショナル (Asset Management One International Ltd.)	MIZUHO HOUSE, 30 OLD BAILEY, LONDON, EC4M 7AU, UK	99	0.47
計	—	1,386	6.60

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,614,800	—	(注) 1
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,248,600	182,486	(注) 1
単元未満株式	普通株式 130,116	—	1単元(100株)未満の株式 (注) 2
発行済株式総数	20,993,516	—	—
総株主の議決権	—	182,486	—

(注) 1. 上記「完全議決権株式(自己株式等)」のほか、連結財務諸表に自己株式として認識している「野村信託銀行(株)(グンゼグループ従業員持株会専用信託口)」保有の当社株式112,200株があります。

なお、当該株式数は上記「完全議決権株式(その他)」の欄に含まれております。

2. 単元未満株式には、当社所有の自己株式23株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) グンゼ株式会社	大阪市北区梅田二丁目5 番25号	2,614,800	—	2,614,800	12.45
計	—	2,614,800	—	2,614,800	12.45

(注) 上記のほか、連結財務諸表に自己株式として認識している野村信託銀行(株)(グンゼグループ従業員持株会専用信託口)保有の当社株式112,200株があります。

(8) 【役員・従業員株式所有制度の内容】

1. 役員・従業員持株制度の概要

当社は、当社グループ従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上へのインセンティブの付与を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」を導入しております。

本プランは、「グンゼグループ従業員持株会」（以下「持株会」という。）に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。本プランでは、当社が信託銀行に「グンゼグループ従業員持株会専用信託」（以下、「従持信託」という。）を設定し、従持信託は、その設定後3年間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を予め取得します。

その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当社株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。なお、当社は、従持信託が当社株式を取得するための借入に対し保証することになるため、当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、かかる保証行為に基づき、当社が当該残債を弁済することになります。

（従持信託の概要）

名称	グンゼグループ従業員持株会専用信託
委託者	当社
受託者	野村信託銀行㈱
受益者	受益者適格要件を満たす者（受益権確定事由の発生後一定の手続きを経て、最終的に確定致します。）
信託契約日	平成29年12月22日
信託の期間	平成29年12月22日～平成33年1月4日
信託の目的	持株会に対する安定的かつ継続的な株式の供給及び受益者適格要件を満たす者への信託財産の交付

2. 役員・従業員持株会に取得させる予定の株式の総数

119,400株

3. 当該役員・従業員株式所有制度による受益権その他の権利を受けることができる者の範囲

受益者確定手続開始日（信託期間満了日が到来し信託財産の換価処分が終了した日、信託財産に属する当社株式が本持株会へ全て売却された日等）において生存し、かつ、本持株会に加入している者（但し、本信託契約の締結日以降受益者確定手続開始日までに定年退職、転籍又は役員への昇格によって本持株会を退会した者を含みます。）のうち、所定の手続を行った者を受益者とします。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号、第7号及び第9号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第3号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成29年5月12日)での決議状況 (取得期間平成29年5月16日～平成29年9月22日)	3,400,000	1,700,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	3,400,000	1,378,437,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	321,563,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	—	18.9
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	—	18.9

(注) 平成29年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。取締役会での決議株式数及び当事業年度における取得自己株式数各3,400,000株は、いずれも株式併合前であります。

会社法第155条第3号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成30年5月14日)での決議状況 (取得期間平成30年5月15日～平成29年9月20日)	260,000	1,850,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	—	—
残存決議株式の総数及び価額の総額	260,000	1,850,000,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	100.0	100.0

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの取得による株式数は含めておりません。

会社法第155条第9号による取得

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成29年11月2日)での決議状況 (取得日平成29年11月2日)	1,341	買取単価に買取対象株式数を 乗じた金額(注)
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	1,341	6,694,380
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	—
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	—	—
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	—	—

(注) 平成29年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。当該株式併合により生じた1株に満たない端数の処理について、会社法第235条第2項、第234条第4項及び第5項の規定に基づき自己株式の買取を行ったものであり、買取単価は取得日の東京証券取引所における当社普通株式の終値であります。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	13,170	12,916,402
当期間における取得自己株式	413	2,788,890

- (注) 1. 平成29年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。当事業年度における取得自己株式数13,170株の内訳は、株式併合前11,895株、株式併合後1,275株であります。
2. 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。
3. 取得自己株式には、「グンゼグループ従業員持株会専用信託」が取得した当社株式は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他				
(株式併合による減少)	23,618,003	—	—	—
(単元未満株式の買増請求による売渡)	15	61,660	—	—
(ストック・オプションの権利行使)	156,000	104,873,825	—	—
保有自己株式数	2,614,823	—	2,615,236	—

- (注) 1. 平成29年10月1日付で株式併合(10株を1株)及び単元株式数の変更(1,000株から100株へ変更)を行っております。当事業年度における単元未満株式の買増請求による売渡15株の内訳は、株式併合後15株であります。また、当事業年度における「ストック・オプションの権利行使」156,000株の内訳は、株式併合前144,000株、株式併合後12,000株であります。
2. 処理自己株式数には、野村信託銀行株式会社(グンゼグループ従業員持株会専用信託口)から従業員持株会へ売却した株式数(当事業年度7,200株、当期間4,200株)を含めておりません。
3. 保有自己株式数には、野村信託銀行株式会社(グンゼグループ従業員持株会専用信託口)が保有する当社株式(当事業年度112,200株、当期間108,000株)を含めておりません。
4. 当期間における「その他」欄には、平成30年6月1日から有価証券報告書提出日までのストック・オプションの権利行使及び単元未満株式の売渡による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、連結配当性向50%程度を当面の目安に、中期的な業績見通しに基づき、安定的・継続的な利益還元を行ってまいります。

当社の剰余金の配当は、期末配当による年1回を基本方針としております。また剰余金の配当の決定機関は、株主総会であります。

この方針のもと、当期の配当につきましては、1株当たり90円としております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額	1株当たり配当額
平成30年6月26日 定時株主総会決議	1,654百万円	90円

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第118期	第119期	第120期	第121期	第122期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高(円)	291	342	404	466	538 (7,080)
最低(円)	248	266	266	322	379 (5,000)

(注) 1. 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2. 平成29年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。第122期の株価については株式併合前の最高・最低株価を記載し、()内に株式併合後の最高・最低株価を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高(円)	5,380	5,880	6,580	7,080	6,940	6,450
最低(円)	5,030	5,000	5,610	6,380	5,770	5,580

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員状況】

男性13名 女性2名 (役員のうち女性の比率13%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	社長執行役員	廣地 厚	昭和35年1月11日生	昭和58年3月 当社入社 平成24年6月 当社取締役、執行役員、アパレルカンパニーレグウェア事業本部長兼CCO 平成25年1月 当社取締役、執行役員、アパレルカンパニーインナーウェア事業本部長兼CCO 平成26年4月 当社取締役、執行役員、アパレルカンパニー長兼インナーウェア事業本部長兼CCO 平成26年6月 当社常務取締役、常務執行役員、アパレルカンパニー長兼インナーウェア事業本部長兼CMO兼CLO 平成28年4月 当社常務取締役、常務執行役員、経営戦略部長兼CHO兼CCSRO兼CMO 平成28年6月 当社代表取締役専務取締役、専務執行役員、経営戦略部長兼CHO兼CCSRO兼CMO 平成29年4月 当社代表取締役社長、社長執行役員(現)	注5	4,400
代表取締役	常務執行役員 経営戦略部長	佐口 敏康	昭和36年11月14日生	昭和59年3月 当社入社 平成24年4月 当社執行役員、プラスチックカンパニー長 平成26年6月 当社取締役、執行役員、プラスチックカンパニー長 平成29年4月 当社常務取締役、常務執行役員、経営戦略部長 平成30年6月 当社代表取締役、常務執行役員、経営戦略部長(現)	注5	1,200
取締役		白井 文	昭和35年5月23日生	平成5年6月 尼崎市議会議員 (2期8年) 平成14年12月 尼崎市長 (2期8年) 平成23年6月 当社取締役(現) 平成27年6月 ペガサスミシン製造(株)外取締役(現) 住友精密工業(株)外取締役(現) 平成30年6月 三洋化成工業(株)外取締役(現)	注5	1,800
取締役		中井 洋恵	昭和36年5月20日生	昭和63年4月 弁護士登録(大阪弁護士会)(現) 平成7年4月 井上・中井法律事務所設立 平成23年9月 ひなた法律事務所設立(現) 平成25年6月 (株)遠藤照明社外監査役 平成28年8月 関西ペイント(株)外監査役 平成30年6月 当社取締役(現)	注5	—
取締役	執行役員 人事総務部長	赤瀬 康宏	昭和33年7月6日生	昭和57年4月 当社入社 平成22年4月 当社執行役員、人事・総務部長兼CHO代理 平成25年6月 当社取締役、執行役員、人事・総務部長兼CHO代理 平成26年6月 当社取締役、執行役員、人事・総務部長兼CCO兼CHO代理 平成29年4月 当社取締役、執行役員、人事総務部長(現)	注5	2,000
取締役	執行役員 繊維資材事業 部長	岡 修也	昭和34年8月28日生	昭和60年4月 当社入社 平成22年4月 当社繊維資材事業部長 平成24年4月 当社執行役員、繊維資材事業部長 平成26年6月 当社取締役、執行役員、繊維資材事業部長(現)	注5	1,200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	執行役員 エンブラ事業 部長	木村 克彦	昭和38年4月2日生	昭和61年4月 平成17年4月 平成24年4月 平成28年6月	当社入社 当社エンブラ事業部営業統括課長 当社執行役員、エンブラ事業部長 当社取締役、執行役員、エンブラ 事業部長(現)	注5	600
取締役	執行役員 アパレルカン パニー長兼レ ッグウェア事 業本部長	高尾 茂樹	昭和33年12月30日生	昭和56年4月 平成25年1月 平成26年4月 平成28年4月 平成28年6月	当社入社 当社アパレルカンパニーレッグウ ェア事業本部長 当社執行役員、アパレルカンパニ ー次長兼レッグウェア事業本部長 当社執行役員、アパレルカンパニ ー長兼レッグウェア事業本部長 当社取締役、執行役員、アパレル カンパニー長兼レッグウェア事業 本部長(現)	注5	952
取締役	執行役員 技術開発部長	阿武 克也	昭和30年4月3日生	昭和54年3月 平成25年8月 平成26年4月 平成27年4月 平成28年6月 平成29年4月	当社入社 当社アパレルカンパニーインナー ウェア事業本部長兼生産本部長 当社執行役員、アパレルカンパニ ーインナーウェア事業本部長兼 生産本部長 当社執行役員、技術開発部長兼 CTO 当社取締役、執行役員、技術開発 部長兼CTO 当社取締役、執行役員、技術開発 部長(現)	注5	700
取締役	執行役員 研究開発部長	及川 克彦	昭和38年4月12日生	昭和61年4月 平成20年10月 平成26年4月 平成26年6月 平成28年6月 平成29年4月	当社入社 当社エンブラ事業部江南工場長 当社執行役員、研究開発部長 当社執行役員、研究開発部長兼 CRO 当社取締役、執行役員、研究開発 部長兼CRO 当社取締役、執行役員、研究開発 部長(現)	注5	498
取締役	執行役員 財務経理部長	熊田 誠	昭和36年7月24日生	昭和59年3月 平成24年7月 平成27年6月 平成28年4月 平成29年4月 平成29年6月	当社入社 当社アパレルカンパニー経営管理 部長 当社アパレルカンパニー経営管理 部長兼アパレルカンパニーインナ ーウェア事業本部長 当社アパレルカンパニー次長兼経 営管理部長兼グンゼ物流㈱代表取 締役社長 当社執行役員、財務経理部長 当社取締役、執行役員、財務経理 部長(現)	注5	600

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)		水 沼 洋	昭和32年3月5日生	昭和55年4月 当社入社 平成22年7月 当社経営戦略部財務経理統括室マ ネージャー 平成24年7月 当社秘書室長 平成29年6月 当社監査役(現)	注6	351
監査役		井 上 圭 吾	昭和30年4月23日生	昭和56年10月 司法試験合格 平成59年4月 弁護士登録(大阪弁護士会)、網本 法律事務所(現アイマン総合法律 事務所)入所(現) 平成25年11月 当社監査役(現) 平成28年5月 ㈱近鉄百貨店社外監査役(現)	注7	1,100
監査役		鈴 鹿 良 夫	昭和27年10月28日生	昭和50年4月 国税庁入庁 平成9年7月 西日本旅客鉄道㈱財務部財務室長 平成15年7月 舞鶴税務署長 平成23年7月 尼崎税務署長 平成24年7月 大阪国税局 課税第二部部长 平成25年9月 鈴鹿税理士事務所 開業(現) 平成26年6月 ㈱ハークスレイ社外監査役(現) 平成27年6月 当社監査役(現)	注7	400
監査役		溝 口 克 彦	昭和30年6月28日生	昭和54年3月 当社入社 平成21年11月 当社人事・総務部総務サービ センターマネージャー 平成23年11月 当社人事・総務部総務サービ センターマネージャー兼㈱グンゼ オフィスサービス代表取締役社長 平成25年4月 当社執行役員、グンゼ開発㈱代 表取締役社長 平成29年3月 日東精工㈱社外監査役(現) 平成29年4月 グンゼ開発㈱社長付 平成29年6月 当社監査役(現)	注6	700
計						16,501

- (注) 1. 取締役 白井 文氏及び中井洋恵氏は、社外取締役であります。
2. 取締役 中井洋恵氏の戸籍上の氏名は、浅見洋恵であります。
3. 監査役 井上圭吾氏及び鈴鹿良夫氏は、社外監査役であります。
4. 監査役 水沼 洋氏及び監査役 溝口克彦氏は、当社における財務・経理部門での経験を有し、また監査役 鈴鹿良夫氏は、国税局幹部、税理士としての豊富な経験があり、いずれも財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
5. 取締役の任期は、平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
6. 監査役 水沼 洋氏及び溝口克彦氏の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成33年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
7. 監査役 井上圭吾氏及び鈴鹿良夫氏の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

8. 当社は、取締役会の活性化と意思決定の迅速化及び業務執行体制の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員15名のうち、取締役を兼務していない執行役員は以下の6名であります。

職名	氏名
常務執行役員 グンゼ開発(株)代表取締役社長	古川 知己
執行役員 メディカル事業部長兼QOL研究所長	森田 真一郎
執行役員 アパレルカンパニーインナーウェア事業本部長	荒木 敬太
執行役員 アパレルカンパニー次長	中野 努
執行役員 プラスチックカンパニー長	岡 高広
執行役員 メカトロ事業部長	佐保 一成

9. 当社は、法令に定める監査役員の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選出しております。補欠監査役の略歴は以下のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
三木 秀夫	昭和30年6月18日生	昭和56年10月 司法試験合格 昭和59年4月 弁護士登録(大阪弁護士会)(現) 平成3年9月 三木秀夫法律事務所設立(現) 平成22年4月 大阪弁護士会副会長 近畿弁護士会連合会常務理事 日本弁護士連合会理事	—

10. 担当名の略称の説明

- CCO Chief Compliance Officer (コンプライアンス担当)
- CMO Chief Marketing Officer (マーケティング担当)
- CLO Chief Logistics Officer (物流担当)
- CHO Chief Human-Resources Officer (人事担当)
- CCSRO Chief Corporate Social Responsibility Officer (CSR担当)
- CTO Chief Technical Officer (技術担当)
- CRO Chief Research and Development Officer (研究開発担当)

なお、当社は平成29年4月1日付でチーフオフィサー制度を廃止しております。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

1. 企業統治の体制

(企業統治体制の概要)

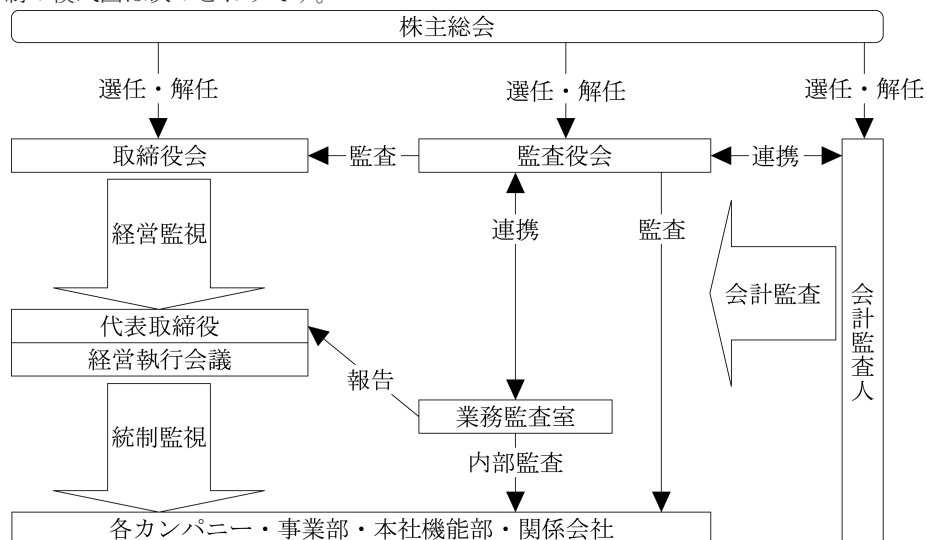
当社は監査役会設置会社であり、監査役会は社外監査役2名を含む監査役4名（平成30年6月27日現在）で構成されています。監査役は、取締役会等の重要会議への出席、当社事業部門・管理部門への往査、国内外の子会社調査等を実施し、経営への監視機能を果たしております。

現行の経営体制は、社外取締役2名を含む取締役11名（うち女性2名）であります。また、意思決定の迅速化及び業務執行体制の強化を図るため執行役員制度を導入しており、取締役兼務者9名を含む執行役員15名を選任しております。なお、経営責任の明確化を図るとともに、経営環境の変化により迅速に対応できる経営体制とするために、取締役及び執行役員の任期は1年としております。取締役会は、原則として月1回開催（平成30年3月期は13回開催）されており、業務執行に関する重要事項や法令、定款に定められた事項の決定を行うとともに、取締役の職務執行状態を監督しております。これと併せて、代表取締役、役付役員、機能別担当取締役・執行役員8名等で構成される経営執行会議を開催（平成30年3月期は24回開催）し、業務執行に関する重要事項の審議を行い、意思決定の迅速化を図っております。

なお、当社グループのコーポレートガバナンスに関する基本方針として、「グンゼ コーポレートガバナンス・ガイドライン」を平成27年12月18日開催の取締役会において制定いたしました。その内容は、以下の当社ホームページに掲載しております。

<http://www.gunze.co.jp/ir/policy/governance/index.html>

企業統治体制の模式図は次のとおりです。



(現行の企業統治体制を採用している理由)

当社は、企業価値を継続的に増大させていくという経営の基本方針を実現するために、コンプライアンスの重要性を認識し、社会・経済環境に対応した迅速な意思決定と適時・適切な情報開示に努め、経営の透明性向上を図ることによって株主価値を高めることを経営上の最も重要な課題の一つとして取り組んでおります。その実現にあたっては、社外取締役及び社外監査役の設置により経営の透明性を確保し、また、迅速な意思決定及び経営・業務執行の監視が機能する企業統治体制を整備する必要があることから、現行の体制を採用しております。

(内部統制システム及びリスク管理体制の整備状況)

内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況については以下のとおりであり、当社取締役会でその内容を決議しております。

(1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 当社は、当社グループ構成員の具体的な行動指針として制定した「グンゼ行動規範」を周知徹底し経営理念の実現を図るものとする。

- ② 当社は、当社グループのCSRへの取り組みを強化するため、CSR担当取締役・執行役員を任命するとともに、特に法令等遵守と企業倫理の確立を図るためにコンプライアンス担当取締役・執行役員を任命する。また、「CSR規程」、「コンプライアンス規程」等に基づき、組織横断的に統括する組織である「全社CSR委員会」（委員長：CSR担当取締役・執行役員）において、法令等遵守のための体制強化を図るものとする。
 - ③ 当社は、「取締役会規則」に基づき、取締役会を原則として毎月1回開催し、取締役会は当社グループの重要な業務執行の決定を行うとともに、取締役の職務執行を監督するものとする。
 - ④ 当社は、取締役会の経営監視機能の強化を図るため、独立性の高い社外取締役を選任するものとする。
 - ⑤ 当社は、取締役・執行役員・監査役を対象としたCSRセミナーを定期的の実施し、違法行為や不正の未然防止に努めるものとする。
 - ⑥ 常勤監査役は、「監査役監査規程」に基づき取締役会のほか重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監査するものとする。
 - ⑦ 当社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的な勢力及び団体からの要求には、全社をあげて迅速かつ組織的に対応するとともに、外部専門機関と連携を図り、断固排除する姿勢を堅持するものとする。
 - ⑧ 当社は、「情報開示規程」に基づき、情報取扱責任者を置いて、当社グループの会社情報の的確な管理・統制を図るとともに、開かれた企業グループとして、適正な情報を迅速かつ公正に開示するものとする。
- (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- 当社は、株主総会議事録、取締役会議事録、稟議書、契約書などの取締役の職務遂行に係る文書、資料、情報については、「文書規程」等によって保存・管理を行うものとする。
- (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ① 当社は、「リスク管理規程」に基づき、当社グループの組織横断的なリスク管理体制を強化し、リスク全般についてその未然防止や不測の事態への適切な対応を図るものとする。特に情報リスクに関しては、「ITセキュリティ方針」・「ITセキュリティ対策標準」に基づき、当社グループの情報資産の保護に努めるものとする。
 - ② 当社は、「営業秘密管理基本規程」、「営業秘密管理基準」に基づき、組織横断的に統括する組織である「営業秘密管理委員会」（委員長：コンプライアンス担当取締役・執行役員）を置いて、当社グループにおける営業秘密の適正な管理に努め、重要な営業秘密の漏洩防止を図るものとする。
- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ① 当社は、取締役会の機能をより強化し経営効率を向上させるため、「経営執行会議規約」に基づき、代表取締役、役付役員、機能別担当取締役・執行役員等で構成される経営執行会議を概ね週1回開催し、当社グループの業務執行に関する重要事項の審議を行うものとする。
 - ② 当社は、業務の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、取締役会のチェック機能を強化するとともに、取締役会の活性化と意思決定の迅速化を図るため、執行役員制度をとるものとする。
 - ③ 当社は、変化の激しい経営環境に機敏に対応し、経営責任の明確化を図るため、取締役の任期を1年とする。
 - ④ 当社は、「業務分掌内規」、「カンパニー長責任権限規程」、「事業グループ長責任権限規程」を制定し、当社グループの内部統制の妥当性確保、業務執行手続きの明確化並びに経営・管理の効率向上に努めるものとする。
 - ⑤ 当社は、当社グループの業務執行を効率的に行うため、全社プロジェクト活動を通じて、ITを活用した業務改革を推進するものとする。
 - ⑥ 監査役は、取締役が善管注意義務に則り行う、当社グループの内部統制システムの構築・運用状況について監視・検証するものとする。
- (5) 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
- ① 当社は、コンプライアンスの徹底を図るため、当社グループ構成員に対して必要な教育・研修を定期的実施するほか、法令の制定・改正が行われた場合、また当社グループや他社で重大な不祥事や事故が発生した場合には、すみやかに必要な教育・研修を実施するものとする。
 - ② 当社は、当社グループに適用する規程・規約を社内イントラネットに掲載し、使用人がいつでも縦覧できるようにするものとする。

- ③ コンプライアンスに関する情報については、相談・通報の窓口（「なんでも相談ホットライン」）を通して使用人が直接通報を行う手段を確保し、不祥事や事故の未然防止に努めるものとする。特に重大な法令違反、その他のコンプライアンスに関する重要な事実を発見したときは、社長又はコンプライアンス担当取締役・執行役員にも直接通報するものとする。
- (6) 企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ① 当社は、「全社CSR委員会」による統括のもと、当社各部門・グループ各社にコンプライアンス推進責任者を置き、コンプライアンスの徹底を図るものとする。特にITセキュリティについては、当社各部門・グループ各社にITセキュリティ責任者(DIO：ディビジョン・インフォメーション・オフィサー)を置き、管理の徹底を図るものとする。
- ② 当社は、当社グループ各社の経営について、その自主性を尊重しつつ、事業内容の定期報告と重要案件についての事前協議等を通じて指導・助言を行い、業務の適正化を図るものとする。
- ③ 業務監査室は、当社グループの業務全般に係わる内部統制の有効性について監査し、企業集団としての業務の適正と効率性確保を図るものとする。
- ④ 監査役は、前項③の監査報告に基づき、監査を必要とする当社グループ会社に対して、内部統制の有効性、企業集団としての業務の適正と効率性について監査を行うものとする。なお、監査役が必要と認めた場合については、当社グループ会社に対して、監査役が直接監査を行うものとする。
- (7) 財務報告の信頼性を確保するための体制
- 当社は、金融商品取引法に定める財務報告に係る当社グループの内部統制の有効性を的確に評価するため、「内部統制実施基準」に基づき、内部統制評価責任者（財務担当取締役・執行役員）ほか各種責任者を置いて、連結財務諸表を構成する当社及び連結子会社の内部統制を整備・運用・評価し、その結果を内部統制報告書として公表するものとする。
- (8) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
- 監査役は、監査業務を補助するため、「監査役監査規程」に基づき必要に応じて業務監査室等の使用人を使用できるものとする。
- (9) 補助使用人の取締役からの独立性及び補助使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- 監査役により監査業務に必要な命令を受けた使用人は、その命令に関して、取締役、業務監査室長等、上長の指揮命令を受けないものとする。
- (10) 取締役及び使用人並びに子会社の役職員が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- ① 当社グループの役職員は、会社の信用や業績に大きな悪影響を与えるなど、当社グループに著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見したときは、適切な措置を講ずるとともに、遅滞なくその事実を当社監査役に報告するものとする。
- ② 当社グループの役職員は、当社監査役から監査において必要となる報告の要求があった場合には、遅滞なく報告するものとする。
- ③ 定期的にグループ監査役会を開催し、子会社の監査役が子会社のコンプライアンスリスク等を報告するものとする。
- ④ 業務監査室長は、業務監査室による当社グループの監査指摘事項を遅滞なく監査役に報告するものとする。
- ⑤ 当社グループの役職員は、上記(5)の③に基づく情報のうち重要な事項については、遅滞なく監査役に報告するものとする。
- ⑥ 当社は、「公益通報者等保護規定」に基づき、前項⑤の報告を行った当社グループの役職員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止する。
- (11) その他監査役への報告が実効的に行われることを確保するための体制
- ① 監査役は、「監査役会規則」「監査役監査規程」に基づき、監査方針の策定や業務分担等を行い、定期的に代表取締役、会計監査人及び業務監査室と意見交換、情報交換を行うものとする。
- ② 監査役は、取締役及び使用人に監査指摘事項を提出するとともに、必要に応じて該当部門の是正勧告や助言を行うなど、内部統制が有効に機能するよう努めるものとする。
- ③ 監査役の半数以上は社外監査役とし、監査における透明性を確保するものとする。
- ④ 当社は、監査役が会社法第388条に基づき費用の支出等を請求したときは、当該請求がその職務の執行に必要でないとして認められた場合を除き速やかに処理するとともに、監査役の職務の執行について生ずる費用等について、毎年、一定額の予算を設ける。

(社外取締役及び社外監査役との間で締結している責任限定契約の概要)

社外取締役2名及び社外監査役2名は、当社と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、600万円又は法令の定める最低限度額のいずれか高い額となります。

2. 内部監査及び監査役監査

(内部監査部門の状況)

当社は、関係会社を含めた業務プロセスの適正性及び経営の効率性を監査する目的で、社長直轄の内部監査部門として業務監査室を設置しております。現在5名のスタッフにより内部監査を実施しており、内部統制機能の充実を図っております。

(監査役監査の状況)

監査役監査の組織及び人員については、「6 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの状況 1. 企業統治の体制 (企業統治体制の概要)」をご参照ください。また、財務及び会計に関する相当程度の知見を有する監査役の状況については、「5 役員状況 (注) 3」をご参照ください。

(監査役と内部監査部門の連携状況)

監査役及び監査役会は、年初に内部監査部門である業務監査室と、内部監査計画の概要、内部監査項目についての事前確認を行っております。また、必要に応じて業務監査室の往査及び監査講評に立ち会うほか、内部監査実施後には、業務監査室から監査結果について報告を受けております。

(監査役と会計監査人の連携状況)

監査役及び監査役会は、年初に会計監査人からの監査計画の概要や重点監査項目についての報告を受け、その妥当性についての意見を述べております。監査結果等に関する意見交換を会計監査人との間で適宜行うなど、緊密な連携を維持しております。また、必要に応じて会計監査人の往査及び監査講評に立ち会うほか、会計監査人から会計監査報告を受けるとともに、監査の品質管理体制について文書等による説明を受けその妥当性を確認しております。この他にも会計監査人に対して、監査の実施経過について適宜報告を求めるなど、恒常的な連携を維持しております。

3. 社外取締役及び社外監査役

当社は、経営の透明性及び意思決定の妥当性・適正性を確保するため、社外取締役2名及び社外監査役2名を選任しております。

当社は、社外取締役及び社外監査役の選任にあたり、会社法上の要件に加え東京証券取引所が規定等で定める独立性に関する判断基準等を満たし、一般株主との利益相反の生じる恐れのない者を選任しております。なお、当社は社外取締役2名及び社外監査役2名を独立役員として選任し、東京証券取引所へ届出しております。

社外取締役及び社外監査役の他の会社との兼務の状況並びに当社株式の保有状況は、「5 役員状況」に記載のとおりであります。

社外取締役白井文氏は、役員持株会を通して取得した当社株式を所有しておりますが、当社との間にはそれ以外の人的関係、資金的関係又は取引関係その他の特別な利害関係はありません。また、重要な兼務先と当社の間にも特別な利害関係はないため、同氏の独立性は高く、一般株主と利益相反の生じる恐れはないものと認識しております。

社外取締役中井洋恵氏は、当社との間に特別な利害関係はなく、また、重要な兼務先と当社の間にも特別な利害関係はないため、同氏の独立性は高く、一般株主と利益相反の生じる恐れはないものと認識しております。

社外監査役井上圭吾氏及び鈴木良夫氏の両名は、役員持株会を通して取得した当社株式を所有しておりますが、両氏と当社の間にはそれ以外の人的関係、資金的関係又は取引関係その他の特別な利害関係はなく、また、重要な兼務先と当社の間にも特別な利害関係はないため、両氏の独立性は高く、一般株主と利益相反の生じる恐れはないものと認識しております。

社外取締役は、社外の専門的な知識・経験と公正かつ客観的な立場から、取締役会において助言・提言を行うとともに、経営トップ及び取締役等と経営に関する意見交換を行っております。

また、社外監査役は、弁護士並びに税理士としての専門的な視点と独立的な立場から、取締役会並びに監査役会において公正な意見表明を行うとともに、主要な事業場等への実地調査を行い各部門の業務執行状況についての聴取及び提言を行っております。なお、社外監査役と内部監査部門及び会計監査人との相互連携の状況については、「6 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの状況 2. 内部監査及び監査役監査」をご参照ください。

4. 役員の報酬等

(1) 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	
取締役 (社外取締役を除く)	177	105	42	29	11
監査役 (社外監査役を除く)	22	22	—	—	4
社外取締役	12	12	—	—	2
社外監査役	12	12	—	—	2

(2) 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(3) 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なものはありませんので、記載しておりません。

(4) 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役の報酬等については、平成19年6月開催の定時株主総会で決議された取締役報酬限度額に基づき、代表取締役と社外取締役の協議により報酬等の額を定め、取締役会で決定しております。取締役の個人別の報酬等の額については、適切な比較対象となる他社の報酬等の水準を参照しつつ、従業員とのバランスを考慮し、また、賞与は業務執行状況と業績を考慮して決定しております。また、中長期的な業績向上と企業価値向上に対するインセンティブとして、社外取締役を除く取締役に対し株主報酬型ストック・オプションを導入しております。

監査役の報酬は取締役の報酬等を参考に監査役会が協議し決定しております。なお、賞与は支払っておりません。

5. 株式の保有状況

(1) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 69銘柄
 貸借対照表計上額の合計額 22,224百万円

(2) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
 (前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)京都銀行	5,958,638	4,832	取引関係維持・強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	6,265,040	4,383	取引関係維持・強化のため
イオン(株)	901,283	1,464	取引関係維持・強化のため
(株)GSICレオス	9,321,376	1,277	取引関係維持・強化のため
日東精工(株)	2,084,992	963	関係維持・強化のため
日清紡ホールディングス(株)	518,000	576	取引関係維持・強化のため
岩谷産業(株)	803,000	520	取引関係維持・強化のため
(株)ヤクルト本社	70,340	434	取引関係維持・強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,831,460	373	取引関係維持・強化のため
日本ユニシス(株)	218,600	332	情報システム関係会社の共同出資等の取引関係維持強化のため
倉敷紡績(株)	1,176,487	288	取引関係維持・強化のため
アクシアルリテイリング(株)	57,707	244	取引関係維持・強化のため
ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)	32,440	215	取引関係維持・強化のため
第一生命ホールディングス(株)	104,000	207	取引関係維持・強化のため
(株)ライフコーポレーション	58,785	191	取引関係維持・強化のため
(株)千趣会	237,000	190	取引関係維持・強化のため
(株)しまむら	12,635	185	取引関係維持・強化のため
J. フロントリテイリング(株)	101,872	168	取引関係維持・強化のため
新光商事(株)	100,000	121	取引関係維持・強化のため
(株)ヨンドシーホールディングス	43,616	108	取引関係維持・強化のため
(株)平和堂	39,961	107	取引関係維持・強化のため
三共生興(株)	258,600	100	取引関係維持・強化のため
(株)いなげや	63,125	97	取引関係維持・強化のため
三京化成(株)	346,500	85	取引関係維持・強化のため
フクダ電子(株)	9,741	62	取引関係維持・強化のため
(株)フジ	25,276	61	取引関係維持・強化のため
H2Oリテイリング(株)	32,646	58	取引関係維持・強化のため
(株)天満屋ストア	49,990	52	取引関係維持・強化のため
Apex Material Technology Corp.	691,946	48	取引関係維持・強化のため

みなし保有株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)京都銀行	1,000,000	811	退職給付信託に抛出、議決権行使の指図権は留保

(注) 1. 貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下である銘柄も含め、上位30銘柄を記載しております。
 2. 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)京都銀行	1,191,727	7,078	取引関係維持・強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	6,265,040	4,366	取引関係維持・強化のため
イオン(株)	902,172	1,713	取引関係維持・強化のため
(株)G S Iクレオス	932,137	1,470	取引関係維持・強化のため
日東精工(株)	2,084,992	1,459	関係維持・強化のため
日清紡ホールディングス(株)	518,000	741	取引関係維持・強化のため
岩谷産業(株)	160,600	631	取引関係維持・強化のため
(株)ヤクルト本社	70,340	553	取引関係維持・強化のため
日本ユニシス(株)	218,600	501	情報システム関係会社の共同出資等の取引関係維持強化のため
倉敷紡績(株)	1,176,487	394	取引関係維持・強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	1,831,460	350	取引関係維持・強化のため
ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)	32,497	291	取引関係維持・強化のため
アクシアルリテイリング(株)	58,178	235	取引関係維持・強化のため
第一生命ホールディングス(株)	104,000	202	取引関係維持・強化のため
J. フロントリテイリング(株)	102,756	185	取引関係維持・強化のため
新光商事(株)	100,000	176	取引関係維持・強化のため
(株)ライフコーポレーション	59,360	174	取引関係維持・強化のため
(株)しまむら	12,814	170	取引関係維持・強化のため
三共生興(株)	258,600	128	取引関係維持・強化のため
(株)ヨンドシーホールディングス	43,991	121	取引関係維持・強化のため
(株)いなげや	63,885	116	取引関係維持・強化のため
(株)平和堂	40,546	104	取引関係維持・強化のため
三京化成(株)	34,650	90	取引関係維持・強化のため
フクダ電子(株)	10,209	79	取引関係維持・強化のため
H2Oリテイリング(株)	33,384	64	取引関係維持・強化のため
(株)天満屋ストア	51,586	63	取引関係維持・強化のため
(株)フジ	25,782	58	取引関係維持・強化のため
(株)ヤマザワ	26,411	46	取引関係維持・強化のため
(株)アークス	17,819	45	取引関係維持・強化のため
(株)東武ストア	15,182	44	取引関係維持・強化のため

(注) 貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下である銘柄も含め、上位30銘柄を記載しております。

- (3) 保有目的が純投資目的である投資株式
該当株式はありません。

6. 会計監査の状況

当社は、会社法に基づく会計監査人及び金融商品取引法に基づく会計監査に協立監査法人を選任しております。当期において会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、会計監査業務に係る補助者の構成については次のとおりであります。

- ・会計監査業務を執行した公認会計士の氏名
代表社員 業務執行社員 南部敏幸、業務執行社員 公江正典
- ・会計監査業務に係る補助者の構成
公認会計士 9名

7. 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨を定款に定めております。

8. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。

9. 取締役会で決議できる株主総会決議事項

(自己株式の取得)

当社は、会社法第165条第2項の規定に従い、取締役会の決議によって自己株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、機動的に自己株式の取得を行うことを目的とするものであります。

10. 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	40	—	41	—
連結子会社	3	—	3	—
計	44	—	44	—

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査報酬は、監査法人が当社の監査上のリスク等を踏まえた監査計画を基に算定した監査報酬案について、監査活動の独立性及び実効性の確保の観点から検証を行い、更に、その効率性及び適正性について検討を加え、監査役会の同意を得たうえで決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の財務諸表について、協立監査法人による監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組み

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,670	9,477
受取手形及び売掛金	27,805	※4 30,277
商品及び製品	19,974	19,468
仕掛品	5,751	5,906
原材料及び貯蔵品	4,546	4,387
短期貸付金	589	874
繰延税金資産	1,198	1,095
その他	2,054	2,386
貸倒引当金	△8	△9
流動資産合計	71,582	73,865
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	114,474	114,993
減価償却累計額	※2 △74,399	※2 △75,887
建物及び構築物（純額）	40,075	39,106
機械装置及び運搬具	100,346	95,255
減価償却累計額	※2 △88,843	※2 △84,819
機械装置及び運搬具（純額）	11,503	10,436
工具、器具及び備品	7,482	7,614
減価償却累計額	※2 △5,910	※2 △6,014
工具、器具及び備品（純額）	1,571	1,599
土地	※3 12,935	※3 12,516
リース資産	725	1,001
減価償却累計額	△250	△410
リース資産（純額）	474	590
建設仮勘定	712	604
有形固定資産合計	67,272	64,853
無形固定資産		
ソフトウェア	940	1,031
その他	975	786
無形固定資産合計	1,916	1,817
投資その他の資産		
投資有価証券	※5 20,376	※5 23,775
投資損失引当金	△299	-
長期貸付金	592	581
繰延税金資産	3,430	1,506
その他	※5 4,738	※5 4,958
貸倒引当金	△150	△84
投資その他の資産合計	28,688	30,737
固定資産合計	97,877	97,408
資産合計	169,460	171,273

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,594	※4 9,640
短期借入金	8,204	6,501
コマーシャル・ペーパー	4,000	6,000
1年内返済予定の長期借入金	6,945	5,077
未払法人税等	1,311	337
賞与引当金	1,166	1,229
設備関係支払手形	721	612
その他	10,379	9,360
流動負債合計	42,323	38,760
固定負債		
長期借入金	8,562	9,912
退職給付に係る負債	4,818	5,263
長期預り敷金保証金	4,371	4,293
その他	1,031	913
固定負債合計	18,783	20,383
負債合計	61,106	59,143
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,071	26,071
資本剰余金	13,998	13,942
利益剰余金	※1 77,504	※1 79,718
自己株式	△9,111	△11,152
株主資本合計	108,462	108,579
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△62	2,711
繰延ヘッジ損益	-	△81
土地再評価差額金	※3 △67	※3 △54
為替換算調整勘定	1,154	1,248
退職給付に係る調整累計額	△1,333	△1,261
その他の包括利益累計額合計	△309	2,561
新株予約権	287	281
非支配株主持分	△88	706
純資産合計	108,353	112,129
負債純資産合計	169,460	171,273

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
売上高	136,579	140,521
売上原価	※1 99,077	※1 100,548
売上総利益	37,502	39,972
販売費及び一般管理費	※2、※3 33,295	※2、※3 33,733
営業利益	4,206	6,239
営業外収益		
受取利息	62	70
受取配当金	424	404
固定資産賃貸料	261	265
デリバティブ評価益	517	37
その他	182	418
営業外収益合計	1,447	1,196
営業外費用		
支払利息	192	203
固定資産賃貸費用	230	234
為替差損	286	296
その他	274	253
営業外費用合計	982	988
経常利益	4,671	6,446
特別利益		
固定資産売却益	※4 2,274	※4 396
投資有価証券売却益	314	14
関係会社株式売却益	-	214
事業譲渡益	233	-
その他	8	-
特別利益合計	2,830	625
特別損失		
固定資産除売却損	※5 833	※5 670
関係会社投融資評価損失	588	-
減損損失	※6 2,303	※6 597
事業構造改善費用	446	281
その他	13	247
特別損失合計	4,186	1,797
税金等調整前当期純利益	3,315	5,275
法人税、住民税及び事業税	1,660	821
法人税等調整額	91	853
法人税等合計	1,752	1,674
当期純利益	1,563	3,600
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失(△)	△1,539	113
親会社株主に帰属する当期純利益	3,102	3,486

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
当期純利益	1,563	3,600
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,661	2,774
繰延ヘッジ損益	-	△81
為替換算調整勘定	△819	260
退職給付に係る調整額	783	72
その他の包括利益合計	※ 1,626	※ 3,025
包括利益	3,189	6,625
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,783	6,487
非支配株主に係る包括利益	△1,593	137

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	26,071	13,999	76,605	△9,108	107,567
当期変動額					
剰余金の配当			△1,589		△1,589
親会社株主に帰属する当期純利益			3,102		3,102
連結範囲の変動			△281		△281
土地再評価差額金の取崩			△333		△333
自己株式の取得				△4	△4
自己株式の処分		△1		2	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	△1	898	△2	895
当期末残高	26,071	13,998	77,504	△9,111	108,462

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	△1,728	△400	1,838	△2,117	△2,408	246	1,233	106,639
当期変動額								
剰余金の配当								△1,589
親会社株主に帰属する当期純利益								3,102
連結範囲の変動								△281
土地再評価差額金の取崩								△333
自己株式の取得								△4
自己株式の処分								1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,666	333	△683	783	2,099	40	△1,321	818
当期変動額合計	1,666	333	△683	783	2,099	40	△1,321	1,714
当期末残高	△62	△67	1,154	△1,333	△309	287	△88	108,353

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	26,071	13,998	77,504	△9,111	108,462
当期変動額					
剰余金の配当			△1,402		△1,402
親会社株主に帰属する当期純利益			3,486		3,486
連結範囲の変動			143		143
土地再評価差額金の取崩			△13		△13
自己株式の取得				△2,194	△2,194
自己株式の処分		△56		152	96
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	△56	2,214	△2,041	116
当期末残高	26,071	13,942	79,718	△11,152	108,579

	その他の包括利益累計額						新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	△62	-	△67	1,154	△1,333	△309	287	△88	108,353
当期変動額									
剰余金の配当									△1,402
親会社株主に帰属する当期純利益									3,486
連結範囲の変動									143
土地再評価差額金の取崩									△13
自己株式の取得									△2,194
自己株式の処分									96
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	2,774	△81	13	93	72	2,871	△6	794	3,659
当期変動額合計	2,774	△81	13	93	72	2,871	△6	794	3,776
当期末残高	2,711	△81	△54	1,248	△1,261	2,561	281	706	112,129

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	3,315	5,275
減価償却費	6,811	6,455
減損損失	2,303	597
関係会社投融資評価損失	588	△22
のれん償却額	50	73
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△12	0
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	878	549
賞与引当金の増減額 (△は減少)	32	64
受取利息及び受取配当金	△487	△474
支払利息	192	203
為替差損益 (△は益)	△57	241
デリバティブ評価損益 (△は益)	△517	△37
固定資産除売却損益 (△は益)	△1,440	274
投資有価証券売却及び評価損益 (△は益)	△312	△9
関係会社株式売却損益 (△は益)	-	△130
関係会社清算損益 (△は益)	-	50
事業構造改善費用	446	281
事業譲渡損益 (△は益)	△233	-
その他の特別損益 (△は益)	△8	-
その他の損益 (△は益)	33	△12
売上債権の増減額 (△は増加)	1,121	△2,430
たな卸資産の増減額 (△は増加)	283	259
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	253	△510
仕入債務の増減額 (△は減少)	547	40
預り敷金及び保証金の増減額 (△は減少)	298	△107
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	771	30
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△712	△218
小計	14,149	10,445
利息及び配当金の受取額	480	484
利息の支払額	△196	△194
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△601	△1,728
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,832	9,007
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△9,023	△5,333
固定資産の売却による収入	3,534	767
固定資産の除却による支出	△329	△396
投資有価証券の取得による支出	△230	△1,252
投資有価証券の売却による収入	974	721
事業譲渡による収入	279	-
事業譲受による支出	※2 △1,419	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※3 △657	-
子会社の清算による収入	30	-
貸付金の増減額 (△は増加)	△19	△377
その他	△974	△83
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,834	△5,954

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	△1,621	2,353
長期借入れによる収入	1,200	6,456
長期借入金の返済による支出	△1,991	△6,934
自己株式の取得による支出	△3	△2,097
配当金の支払額	△1,583	△1,399
非支配株主への配当金の支払額	△1	△1
その他	△114	△159
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,116	△1,783
現金及び現金同等物に係る換算差額	227	△1,364
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,109	△94
現金及び現金同等物の期首残高	7,471	9,670
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	88	△98
現金及び現金同等物の期末残高	※1 9,670	※1 9,477

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 44社

主要な連結子会社の名称

「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため省略しております。

なお、郡宏光電股份有限公司については、前連結会計年度において事業撤退の意思決定を行い、それに伴う会計処理を行ったことにより重要性が減少したため、当連結会計年度より連結子会社から除外しております。

(2) 主要な非連結子会社

長井アパレル(有)ほか

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純利益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社及び関連会社(揚郡光電(広州)有限公司ほか)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等から見て、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法を適用しておりません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、在外連結子会社21社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

a. 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

b. デリバティブ

時価法

c. たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

商品、製品、仕掛品、原材料、貯蔵品

主として移動平均法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

機械類の仕掛品

個別法に基づく原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

a. 有形固定資産

リース資産以外の有形固定資産

定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～60年

機械装置及び運搬具 3～15年

工具、器具及び備品 2～20年

- b. 無形固定資産
定額法
ただし、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- a. 貸倒引当金
当社及び国内連結子会社は、売上債権等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。在外子会社は取引先の資産内容等を考慮して計上しております。
- b. 賞与引当金
当社及び国内連結子会社は、従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する部分を計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- a. 退職給付に係る会計処理の方法
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- b. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5~10年)による定額法により費用処理しております。
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。
- (5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、為替差額は損益として処理しております。また、在外子会社(大連坤姿時裝有限公司は会計通貨が日本円のため除く)の資産・負債及び収益・費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。
- (6) 重要なヘッジ会計の方法
- a. ヘッジ会計の方法
原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約及び通貨スワップについては振当処理によっております。
- b. ヘッジ手段とヘッジ対象
- | ヘッジ手段 | ヘッジ対象 |
|--------|-----------------|
| 為替予約 | 外貨建債権債務、外貨建予定取引 |
| 通貨スワップ | 借入金 |
- c. ヘッジ方針
取引権限及び取引限度額を定めた責任権限規定に基づき行っております。
- (7) のれんの償却方法及び償却期間
のれんの償却については、その効果の及ぶ期間にわたって均等償却しております。
- (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、要求払預金及び取得日から3カ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅小なりリスクしか負わない短期的な投資であります。
- (9) 消費税等の処理方法
消費税及び地方消費税については税抜方式によっております。
- (10) 連結納税制度の適用
連結納税制度を適用しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、当社グループ従業員に対する当社の中長期的な企業価値向上へのインセンティブの付与を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」を導入いたしました。

①取引の概要

本プランは、「グンゼグループ従業員持株会」(以下「持株会」という。)に加入するすべての従業員を対象とするインセンティブ・プランです。本プランでは、当社が信託銀行に「グンゼグループ従業員持株会専用信託」(以下、「従持信託」という。)を設定し、従持信託は、その設定後3年間にわたり持株会が取得すると見込まれる数の当社株式を予め取得します。

その後は、従持信託から持株会に対して継続的に当社株式の売却が行われるとともに、信託終了時点で従持信託内に株式売却益相当額が累積した場合には、当該株式売却益相当額が残余財産として受益者適格要件を満たす者に分配されます。なお、当社は、従持信託が当社株式を取得するための借入に対し保証することになるため、当社株価の下落により従持信託内に株式売却損相当額が累積し、信託終了時点において従持信託内に当該株式売却損相当の借入金残債がある場合は、かかる保証行為に基づき、当社が当該残債を弁済することになります。

②従持信託に残存する自社の株式

従持信託に残存する当社株式を、従持信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。

自己株式の帳簿価額及び株式数

当連結会計年度748百万円、112千株

③総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

当連結会計年度756百万円

(連結貸借対照表関係)

※1 利益剰余金には、租税特別措置法に基づいて計上した特別償却準備金、固定資産圧縮積立金を含んでおります。

※2 減価償却累計額は、減損損失累計額を含んでおります。

※3 連結子会社であるグンゼ開発㈱は、同社の所有する事業用土地について、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、再評価差額金を純資産の部に計上しております。

(1) 再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価額の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて発表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定する方法を採用しております。

(2) 再評価を行った年月日

平成12年3月31日

(3) 再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額(同法第10条の規定する差額)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	△176百万円	△128百万円

※4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形及び売掛金(受取手形)	一百万円	463百万円
支払手形及び買掛金(支払手形)	—	3

※5 非連結子会社及び関連会社に対する投資有価証券及び出資金

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	1,854百万円	1,424百万円
その他の投資等(出資金)	809	975

6 当社は、運転資金の機動的かつ安定的な調達を行うため、取引銀行3行と協調融資型特定融資枠契約を締結しております。当該契約における借入コミットメントの未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
借入コミットメントの総額	5,000百万円	5,000百万円
借入実行残高	—	—
差引額	5,000	5,000

7 偶発債務(保証債務)

連結会社以外の会社に対して次の保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)		当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(住宅ローン債務に対する連帯保証)			
グンゼ㈱従業員	6百万円	グンゼ㈱従業員	4百万円
(銀行借入金<経営指導念書等の差入れを含む>)			
揚郡光電(広州)有限公司	879	揚郡光電(広州)有限公司	780
韓国グンゼ	30		
計	916	計	785

(連結損益計算書関係)

※1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上原価	796百万円	638百万円

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
物流費	7,862百万円	8,107百万円
広告宣伝費	2,683	2,816
給与手当	7,610	7,681
賞与引当金繰入額	535	619
退職給付費用	899	559
減価償却費	581	710
研究開発費	3,074	3,000

※3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
一般管理費	3,074百万円	3,000百万円

※4 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	469百万円	341百万円
機械装置及び運搬具	68	17
工具、器具及び備品	4	0
土地	1,731	36
計	2,274	396

※5 固定資産除売却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
建物及び構築物	754百万円	453百万円
機械装置及び運搬具	67	53
工具、器具及び備品	6	1
土地	2	162
無形固定資産	3	—
計	833	670

※6 減損損失

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当連結会計年度において、以下の減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	金額
台湾	電子部品生産設備	建物及び構築物	385百万円
		機械装置及び運搬具	1,917
		工具、器具及び備品	0
		計	2,303

当社グループは、事業用資産については内部管理上採用している区分を基礎として資産のグルーピングを行っております。

上記資産について、事業撤退の意思決定により回収可能価額が帳簿価額を下回るため、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

なお、回収可能価額は正味売却価額を使用しており、正味売却価額は主として処分価額により算定しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

当連結会計年度において、以下の減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	金額
京都府亀岡市	電子部品生産設備	建物及び構築物	248百万円
		機械装置及び運搬具	145
		工具、器具及び備品	0
広島県広島市	福利厚生施設	土地	13
広島県庄原市	アパレル小売事業	のれん	189
計			597

当社グループは、事業用資産については内部管理上採用している区分を基礎として資産のグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、電子部品分野の事業ダウンサイジング化等に伴い遊休化した固定資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。また、アパレル小売事業会社について、買収時に検討した事業計画において、当初計画していた収益が見込めなくなったため、のれん全額を減額し減損損失として計上しております。

回収可能価額はいずれも正味売却価額により測定をしており、正味売却価額は主として処分価額により算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	2,682百万円	3,959百万円
組替調整額	△314	△10
税効果調整前	2,367	3,948
税効果額	△705	△1,174
その他有価証券評価差額金	1,661	2,774
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	—	△116
組替調整額	—	—
税効果調整前	—	△116
税効果額	—	34
繰延ヘッジ損益	—	△81
為替換算調整勘定		
当期発生額	△819	260
組替調整額	—	—
税効果調整前	△819	260
税効果額	—	—
為替換算調整勘定	△819	260
退職給付に係る調整額		
当期発生額	689	△88
組替調整額	426	192
税効果調整前	1,116	104
税効果額	△332	△32
退職給付に係る調整額	783	72
その他の包括利益合計	1,626	3,025

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	209,935,165	—	—	209,935,165

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	22,966,562	13,878	6,110	22,974,330

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加 13,878株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少 1,110株

新株予約権の行使による減少 5,000株

3 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	当連結会計年度末残高(百万円)
提出会社	ストック・オプション としての新株予約権	287

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,589	8.50	平成28年3月31日	平成28年6月27日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の 原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,402	利益剰余金	7.50	平成29年3月31日	平成29年6月26日

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	209,935,165	—	188,941,649	20,993,516

(変動事由の概要)

減少数の内訳は、次のとおりであります。

株式併合(10:1)による減少 188,941,649株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	22,974,330	3,533,911	23,781,218	2,727,023

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の取得による増加 3,400,000株

単元未満株式の買取による増加 13,170株

株式併合に伴う1株に満たない端数の買取による増加 1,341株

「グンゼグループ従業員持株会専用信託」による増加 119,400株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

株式併合(10:1)による減少 23,618,003株

単元未満株式の買増請求による減少 15株

新株予約権の行使による減少 156,000株

「グンゼグループ従業員持株会専用信託」から

従業員持株会への売却による減少 7,200株

(注) 当連結会計年度末の自己株式数には、グンゼグループ従業員持株会専用信託が所有する株式112,200株を含めて記載しております。

3 新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	当連結会計年度末残高(百万円)
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	281

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,402	7.50	平成29年3月31日	平成29年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,654	利益剰余金	90.00	平成30年3月31日	平成30年6月27日

(注) 1. 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を実施しております。

2. 当連結会計年度の末日後に行う剰余金の1株当たり配当額については、当該株式併合を考慮した金額を記載しております。株式併合を考慮しない場合の当連結会計年度の末日後に行う剰余金の1株当たり配当額は9円であります。

3. 平成30年6月26日定時株主総会による配当金の総額には、「グンゼグループ従業員持株会専用信託」が保有する当社の株式に対する配当金10百万円が含まれております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	9,670百万円	9,477百万円
現金及び現金同等物	9,670	9,477

※2 現金及び現金同等物を対価とする事業の譲受にかかる資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

㈱G S I クレオスからの当社アパレル製品販売事業の譲受けに伴う資産及び負債の内訳並びに事業の譲受価額と事業譲受による支出は次のとおりであります。

流動資産	995百万円
のれん	450
固定負債	△26
事業の譲受価額	1,419
現金及び現金同等物	—
差引：事業譲受による支出	1,419

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

※3 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

株式の取得により新たに㈱ジーンズ・カジュアルダン及び㈹伊達デパートを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出(純増)との関係は次のとおりであります。

流動資産	1,757百万円
固定資産	761
のれん	236
流動負債	△475
固定負債	△447
株式の取得価額	1,833
現金及び現金同等物	△1,175
差引：取得のための支出	657

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については主に銀行借入及びコマーシャル・ペーパーの発行によって行う方針であります。

デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、関係会社（非連結子会社・関連会社）等に対し、長短貸付を行っております。投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、設備購入支払手形は、そのほとんどが1年以内の支払期限であります。短期借入金及びコマーシャル・ペーパーは主に営業取引に係る短期的な資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る借入金であります。金利の変動リスクに晒されております。長期預り敷金保証金は、主に不動産事業に係る預り建築協力金・預り敷金等であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務及び外貨建ての借入金に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的としたものであります。なお、ヘッジ方法等については、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」の「4 会計方針に関する事項」に記載されている「(6) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

(a) 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、営業債権及び長短貸付金について、社内規程に沿って各管理部門が取引先ごとの期日及び残高等を管理し、貸倒等のリスク低減を図っております。

また、デリバティブ取引の利用の契約先は信用度の高い金融機関に限定しており、取引先の契約不履行による信用リスクは、ほとんどないと判断しております。

(b) 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社グループは、外貨建ての営業債権債務について、為替相場の状況により、輸入に係る予定取引により確実に発生すると見込まれる外貨建て営業債務に対する先物為替予約等を行っております。デリバティブ取引の実行及び管理は、取引内容や担当組織及び社内牽制制度等を規定した社内規程に基づいて実施しております。

投資有価証券については、四半期ごとに時価の把握を行い、また、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

(c) 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署及び各関係会社からの報告に基づき財務担当部門が毎月資金計画を作成・更新するとともに、金融市場の情勢に照らし合わせ手元流動性を一定の水準に維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（注2）を参照ください。）。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
①現金及び預金	9,670	9,670	—
②受取手形及び売掛金	27,805	27,805	—
③短期貸付金	589	589	—
④投資有価証券	18,316	18,316	—
⑤長期貸付金	592	592	—
資産計	56,974	56,974	—
⑥支払手形及び買掛金	9,594	9,594	—
⑦短期借入金	8,204	8,204	—
⑧コマーシャル・ペーパー	4,000	4,000	—
⑨1年内返済予定の長期借入金	6,945	6,945	—
⑩設備関係支払手形	721	721	—
⑪長期借入金	8,562	8,509	△52
⑫長期預り敷金保証金	4,371	4,297	△74
負債計	42,399	42,272	△127
デリバティブ取引 ※	(1,749)	(1,749)	—

※ 為替予約等によって生じた債権・債務を純額で表示しており、合計で債務となる場合については、()で表示しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
①現金及び預金	9,477	9,477	—
②受取手形及び売掛金	30,277	30,277	—
③短期貸付金	874	874	—
④投資有価証券	22,060	22,060	—
⑤長期貸付金	581	581	—
資産計	63,272	63,272	—
⑥支払手形及び買掛金	9,640	9,640	—
⑦短期借入金	6,501	6,501	—
⑧コマーシャル・ペーパー	6,000	6,000	—
⑨1年内返済予定の長期借入金	5,077	5,077	—
⑩設備関係支払手形	612	612	—
⑪長期借入金	9,912	9,865	△46
⑫長期預り敷金保証金	4,293	4,231	△61
負債計	42,037	41,929	△108
デリバティブ取引 ※	(499)	(499)	—

※ 為替予約等によって生じた債権・債務を純額で表示しており、合計で債務となる場合については、()で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

- ①現金及び預金、②受取手形及び売掛金、③短期貸付金
 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- ④投資有価証券
 株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、注記「有価証券関係」をご参照下さい。
- ⑤長期貸付金
 回収可能性を反映した元利金の受取見込額を、残存貸付期間に対応するリスクフリーレート（国債利回り等）等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率にて割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

- ⑥支払手形及び買掛金、⑦短期借入金、⑧コマーシャル・ペーパー、⑨1年内返済予定の長期借入金、⑩設備関係支払手形
 短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- ⑪長期借入金
 長期借入金のうち金利が固定されているものについては、残存期間における元利金の合計を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、通貨スワップの振当処理の対象とされているものについては、当該通貨スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算出する方法によっております。
- ⑫長期預り敷金保証金
 将来キャッシュ・フローを見積もり、残存不動産賃貸契約期間等に対応するリスクフリーレート（国債利回り等）等に信用スプレッドを上乗せした利率にて割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額
 (単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式	2,059	1,714

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「④投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 満期のある金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

種類	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	9,670	—	—	—
受取手形及び売掛金	27,805	—	—	—
短期貸付金	589	—	—	—
長期貸付金	34	141	193	223
合計	38,099	141	193	223

当連結会計年度(平成30年3月31日)

種類	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	9,477	—	—	—
受取手形及び売掛金	30,277	—	—	—
短期貸付金	874	—	—	—
長期貸付金	43	159	197	182
合計	40,672	159	197	182

(注4) 社債、長期借入金、リース債務その他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	8,204	—	—	—	—	—
商業・ペーパー	4,000	—	—	—	—	—
短期リース債務	119	—	—	—	—	—
預り敷金保証金	23	—	—	—	—	—
長期借入金	6,945	3,088	4,082	191	1,200	—
長期リース債務	—	119	106	74	47	7
合計	19,293	3,208	4,188	265	1,247	7

当連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	6,501	—	—	—	—	—
商業・ペーパー	6,000	—	—	—	—	—
短期リース債務	165	—	—	—	—	—
預り金	292	—	—	—	—	—
長期借入金	5,077	2,070	941	6,900	—	—
長期リース債務	—	152	120	93	52	6
合計	18,036	2,222	1,061	6,993	52	6

(有価証券関係)

1 満期保有目的の債券で時価のあるもの

前連結会計年度(平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

該当事項はありません。

2 その他有価証券で時価のあるもの

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	7,913	5,026	2,886
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	7,913	5,026	2,886
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	10,285	13,274	△2,989
債券	—	—	—
その他	117	117	—
小計	10,403	13,392	△2,989
合計	18,316	18,419	△102

当連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	9,990	5,543	4,446
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	9,990	5,543	4,446
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	12,070	12,657	△586
債券	—	—	—
その他	—	—	—
小計	12,070	12,657	△586
合計	22,060	18,200	3,860

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	928	314	0
債券	—	—	—
その他	—	—	—
合計	928	314	0

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	146	14	5
債券	—	—	—
その他	—	—	—
合計	146	14	5

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(平成29年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	通貨オプション取引 売建・買建(注)1 米ドル	26,015	4,454	△1,749	△1,749
	合計	26,015	4,454	△1,749	△1,749

(注) 1. オプション取引はゼロコストオプションであり、コールオプション及びプットオプションが一体契約のため、一括して記載しております。

2. 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
通貨スワップの 振当処理	通貨スワップ取引	長期借入金	8,004	1,999	(注) 1
	合計		8,004	1,999	

(注) 1. 通貨スワップの振当処理によるものはヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されるため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

2. 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引 以外の取引	通貨オプション取引 売建・買建(注)1 米ドル	3,877	—	△383	△383
	合計	3,877	—	△383	△383

(注) 1. オプション取引はゼロコストオプションであり、コールオプション及びプットオプションが一体契約のため、一括して記載しております。

2. 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の 振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	3,436	—	△116
	通貨スワップ取引	長期借入金	1,999	—	(注) 1
	合計		5,435	—	△116

(注) 1. 通貨スワップの振当処理によるものはヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されるため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

2. 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付制度においては、確定給付企業年金制度（積立型制度）及び退職一時金制度（非積立型制度であるが、一部の制度では退職給付信託を設定した結果、積立型となっている。）を設けており、主としてポイント制（従業員の職級等に応じて付与されるポイントの累計数に基づいて給付額を計算する制度）に基づいた年金又は一時金を支給しております。なお、一部の連結子会社は簡便法により、退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	31,832百万円	31,016百万円
勤務費用	713	690
利息費用	318	310
数理計算上の差異の発生額	△174	△263
退職給付の支払額	△1,699	△1,818
企業結合による増加額	26	—
退職給付債務の期末残高	31,016	29,935

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	28,100百万円	27,523百万円
期待運用収益	562	550
数理計算上の差異の発生額	515	△351
退職給付の支払額	△1,654	△1,659
年金資産の期末残高	27,523	26,062

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,156百万円	1,324百万円
退職給付費用	127	162
退職給付の支払額	△100	△96
新規連結による増加額	141	—
退職給付に係る負債の期末残高	1,324	1,390

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	30,517百万円	29,459百万円
年金資産	△27,523	△26,062
	2,993	3,397
非積立型制度の退職給付債務	1,824	1,866
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,818	5,263
退職給付に係る負債	4,818	5,263
退職給付に係る資産	—	—
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,818	5,263

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)
勤務費用	713百万円	690百万円
利息費用	318	310
期待運用収益	△562	△550
数理計算上の差異の費用処理額	426	192
簡便法で計算した退職給付費用	127	162
確定給付制度に係る退職給付費用	1,024	804

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
数理計算上の差異	1,116百万円	104百万円
合計	1,116	104

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識数理計算上の差異	1,899百万円	1,795百万円
合計	1,899	1,795

(8) 年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
債券	2%	—%
株式	3%	7%
現金及び預金	24%	4%
生保一般勘定	33%	35%
その他	38%	54%
合計	100%	100%

(注) 1. 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度23%、当連結会計年度23%含まれております。

2. その他の主な内容は、前連結会計年度及び当連結会計年度共に私募リートと低リスクバランスファンドであります。

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
割引率	1.0%	1.0%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%

3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度403百万円、当連結会計年度398百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

1 費用計上額及び科目名

	前連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
販売費及び一般管理費(役員報酬)	41百万円	42百万円

2 スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第1回新株予約権	第2回新株予約権	第3回新株予約権			
決議年月日	平成19年 8月 3日	平成20年 7月 30日	平成21年 7月 31日			
付与対象者の区分及び人数	社外取締役を除く 当社取締役 8名	社外取締役を除く 当社取締役 8名	社外取締役を除く 当社取締役 8名			
株式の種類別のストック・オプションの付与数(注) 1, 3	普通株式 10,800株	普通株式 15,300株	普通株式 22,200株			
付与日	平成19年 8月 20日	平成20年 8月 18日	平成21年 8月 18日			
権利確定条件	—	—	—			
対象勤務期間	—	—	—			
権利行使期間	平成19年 8月 21日から 平成49年 8月 20日まで	平成20年 8月 19日から 平成50年 8月 18日まで	平成21年 8月 19日から 平成51年 8月 18日まで			
新株予約権の数(注) 2	4個(注) 4	27個(注) 4	46個(注) 4			
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(注) 2, 3	普通株式 400株 (注) 4	普通株式 2,700株 (注) 4	普通株式 4,600株 (注) 4			
新株予約権の行使時の払込金額(注) 2	1株当たり 1円	1株当たり 1円	1株当たり 1円			
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(注) 2	発行価格 1円 資本組入額 1円	発行価格 1円 資本組入額 1円	発行価格 1円 資本組入額 1円			
新株予約権の行使の条件(注) 2	<p>(1) 新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役、監査役及び執行役員のうちいずれかの地位をも喪失した時に限り、新株予約権を行使できるものとする。ただしこの場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できるものとする。</p> <p>(2) 上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の①又は②に定める場合(ただし、②については、(注) 5に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。</p> <table border="1"> <tr> <td>① 新株予約権者が平成48年 8月 20日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成48年 8月 21日から 平成49年 8月 20日まで</td> <td>① 新株予約権者が平成49年 8月 18日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成49年 8月 19日から 平成50年 8月 18日まで</td> <td>① 新株予約権者が平成50年 8月 18日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成50年 8月 19日から 平成51年 8月 18日まで</td> </tr> </table> <p>② 当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合) 当該承認日の翌日から30日間</p> <p>(3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができないものとする。</p>			① 新株予約権者が平成48年 8月 20日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成48年 8月 21日から 平成49年 8月 20日まで	① 新株予約権者が平成49年 8月 18日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成49年 8月 19日から 平成50年 8月 18日まで	① 新株予約権者が平成50年 8月 18日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成50年 8月 19日から 平成51年 8月 18日まで
① 新株予約権者が平成48年 8月 20日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成48年 8月 21日から 平成49年 8月 20日まで	① 新株予約権者が平成49年 8月 18日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成49年 8月 19日から 平成50年 8月 18日まで	① 新株予約権者が平成50年 8月 18日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成50年 8月 19日から 平成51年 8月 18日まで				
新株予約権の譲渡に関する事項(注) 2	新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要するものとする。					
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項(注) 2	(注) 5	(注) 5	(注) 5			

	第4回新株予約権	第5回新株予約権	第6回新株予約権
決議年月日	平成22年8月4日	平成23年8月4日	平成24年8月3日
付与対象者の区分及び人数	社外取締役を除く 当社取締役 9名	社外取締役を除く 当社取締役 8名	社外取締役を除く 当社取締役 8名
株式の種類別のストック・オプションの付与数 (注) 1, 3	普通株式 25,000株	普通株式 26,000株	普通株式 26,000株
付与日	平成22年8月19日	平成23年8月19日	平成24年8月21日
権利確定条件	—	—	—
対象勤務期間	—	—	—
権利行使期間	平成22年8月20日から 平成52年8月19日まで	平成23年8月20日から 平成53年8月19日まで	平成24年8月22日から 平成54年8月21日まで
新株予約権の数 (注) 2	47個 (注) 4	59個 (注) 4	129個 (注) 4
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数 (注) 2, 3	普通株式 4,700株 (注) 4	普通株式 5,900株 (注) 4	普通株式 12,900株 (注) 4
新株予約権の行使時の払込金額 (注) 2	1株当たり 1円	1株当たり 1円	1株当たり 1円
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額 (注) 2	発行価格 1円 資本組入額 1円	発行価格 1円 資本組入額 1円	発行価格 1円 資本組入額 1円
新株予約権の行使の条件 (注) 2	(1) 新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役、監査役及び執行役員の内いずれかの地位をも喪失した時に限り、新株予約権を行使できるものとする。ただしこの場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日（以下、「権利行使開始日」という。）から5年を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できるものとする。		
	(2) 上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の①又は②に定める場合（ただし、②については、(注) 5 に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。）には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。		
	① 新株予約権者が平成51年8月19日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成51年8月20日から 平成52年8月19日まで	① 新株予約権者が平成52年8月19日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成52年8月20日から 平成53年8月19日まで	① 新株予約権者が平成53年8月21日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成53年8月22日から 平成54年8月21日まで
② 当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合） 当該承認日の翌日から30日間			
(3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができないものとする。			
新株予約権の譲渡に関する事項 (注) 2	新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要するものとする。		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 (注) 2	(注) 5	(注) 5	(注) 5

	第7回新株予約権	第8回新株予約権	第9回新株予約権
決議年月日	平成25年8月2日	平成26年8月1日	平成27年8月3日
付与対象者の区分及び人数	社外取締役を除く 当社取締役 8名	社外取締役を除く 当社取締役 8名	社外取締役を除く 当社取締役 8名
株式の種類別のストック・オプションの付与数 (注)1, 3	普通株式 26,000株	普通株式 22,400株	普通株式 13,300株
付与日	平成25年8月20日	平成26年8月19日	平成27年8月19日
権利確定条件	—	—	—
対象勤務期間	—	—	—
権利行使期間	平成25年8月21日から 平成55年8月20日まで	平成26年8月20日から 平成56年8月19日まで	平成27年8月20日から 平成57年8月19日まで
新株予約権の数(注)2	168個(注)4	224個(注)4	133個(注)4
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数 (注)2, 3	普通株式 16,800株 (注)4	普通株式 22,400株 (注)4	普通株式 13,300株 (注)4
新株予約権の行使時の払込金額(注)2	1株当たり 1円	1株当たり 1円	1株当たり 1円
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(注)2	発行価格 1円 資本組入額 1円	発行価格 1円 資本組入額 1円	発行価格 1円 資本組入額 1円
新株予約権の行使の条件 (注)2	(1) 新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役、監査役及び執行役員の内いずれかの地位をも喪失した時に限り、新株予約権を行使できるものとする。ただしこの場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できるものとする。		
	(2) 上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の①又は②に定める場合(ただし、②については、(注)5に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。		
	① 新株予約権者が平成54年8月20日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成54年8月21日から 平成55年8月20日まで	① 新株予約権者が平成55年8月19日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成55年8月20日から 平成56年8月19日まで	① 新株予約権者が平成56年8月19日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成56年8月20日から 平成57年8月19日まで
② 当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合) 当該承認日の翌日から30日間			
(3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができないものとする。			
新株予約権の譲渡に関する事項(注)2	新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要するものとする。		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項(注)2	(注)5	(注)5	(注)5

	第10回新株予約権	第11回新株予約権
決議年月日	平成28年8月3日	平成29年8月3日
付与対象者の区分及び人数	社外取締役を除く 当社取締役 10名	社外取締役を除く 当社取締役 9名
株式の種類別のストック・オプションの付与数 (注) 1, 3	普通株式 17,400株	普通株式 10,500株
付与日	平成28年8月19日	平成29年8月21日
権利確定条件	—	—
対象勤務期間	—	—
権利行使期間	平成28年8月20日から 平成58年8月19日まで	平成29年8月22日から 平成59年8月21日まで
新株予約権の数(注) 2	174個(注) 4	105個(注) 4
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数 (注) 2, 3	普通株式 17,400株 (注) 4	普通株式 10,500株 (注) 4
新株予約権の行使時の払込金額(注) 2	1株当たり 1円	1株当たり 1円
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(注) 2	発行価格 1円 資本組入額 1円	発行価格 1円 資本組入額 1円
新株予約権の行使の条件 (注) 2	(1) 新株予約権者は、新株予約権の行使期間内において、当社の取締役、監査役及び執行役員のいずれかの地位をも喪失した時に限り、新株予約権を行使できるものとする。ただしこの場合、新株予約権者は、地位を喪失した日の翌日(以下、「権利行使開始日」という。)から5年を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使できるものとする。	
	(2) 上記(1)に関わらず、新株予約権者は、以下の①又は②に定める場合(ただし、②については、(注) 5 に従って新株予約権者に再編対象会社の新株予約権が交付される場合を除く。)には、それぞれに定める期間内に限り新株予約権を行使できるものとする。	
	① 新株予約権者が平成57年8月19日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成57年8月20日から 平成58年8月19日まで	① 新株予約権者が平成58年8月21日に至るまでに権利行使開始日を迎えなかった場合 平成58年8月22日から 平成59年8月21日まで
	② 当社が消滅会社となる合併で契約承認の議案、又は当社が完全子会社となる株式交換契約もしくは株式移転計画承認の議案につき当社株主総会で承認された場合(株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合) 当該承認日の翌日から30日間	
	(3) 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、かかる新株予約権を行使することができないものとする。	
新株予約権の譲渡に関する事項(注) 2	新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要するものとする。	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項(注) 2	(注) 5	(注) 5

(注) 1. 株式数に換算して記載しております。

2. 当連結会計年度末における内容を記載しております。なお、有価証券報告書提出日の属する月の前月末(平成30年5月31日)現在において、これらの事項に変更はありません。

3. 平成29年6月23日開催の第121期定時株主総会の決議により、平成29年10月1日付で10株を1株とする株式併合を行っているため、「株式の種類別のストック・オプションの付与数」及び「新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数」について、株式併合後の株式数に換算して記載しております。

4. 新株予約権 1 個につき目的となる株式数は、100株であります。
当社が当社普通株式につき、株式分割（当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。）又は株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとします。
$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

調整後付与株式数は、株式分割の場合は、当該株式分割の基準日の翌日以降、株式併合の場合は、その効力発生日以降、これを適用します。ただし、剰余金の額を減少して資本金又は準備金を増加する議案が当社株主総会において承認されることを条件として株式分割が行われる場合で、当該株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための基準日とする場合は、調整後付与株式数は、当該株主総会の終結の日の翌日以降、当該基準日の翌日に遡及してこれを適用します。
また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合理的な範囲で付与株式数を調整します。
なお、上記の調整の結果生じる 1 株未満の端数は、これを切り捨てるものとします。
また、付与株式数の調整を行うときは、当社は調整後付与株式数を適用する日の前日までに、必要な事項を新株予約権原簿に記載された各新株予約権を保有する者（以下、「新株予約権者」という。）に通知します。ただし、当該適用の日の前日までに通知を行うことができない場合には、以後速やかに通知するものとします。
5. 組織再編成行為時の取扱い
当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号のイからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権を以下の条件に基づきそれぞれ交付することとします。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとします。ただし、以下の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めた場合に限るものとします。
- (1) 交付する再編対象会社の新株予約権の数
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとします。
 - (2) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類
再編対象会社の普通株式とします。
 - (3) 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記4に準じて決定します。
 - (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、以下に定める再編後払込金額に上記(3)に従って決定される当該各新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とします。再編後払込金額は、交付される各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる再編対象会社の株式1株当たり1円とします。
 - (5) 新株予約権を行使することができる期間
上記の新株予約権の行使期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記の新株予約権の行使期間の満了日までとします。
 - (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
次に準じて決定します。
 - ①新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとします。
 - ②新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記①記載の資本金等増加限度額から上記①に定める増加する資本金の額を減じた額とします。
 - (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要するものとします。
 - (8) 新株予約権の取得条項
以下の①、②、③の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができます。
 - ①当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
 - ②当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案
 - ③当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案
 - (9) その他の新株予約権の行使の条件
「新株予約権の行使の条件」に準じて決定します。

(追加情報)

「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況 ①ストックオプション制度の内容」に記載すべき事項をストック・オプション等関係注記に集約して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(平成30年3月31日)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

なお、平成29年10月1日に10株を1株とする株式併合を行っておりますが、以下は、当該株式併合を反映した数値を記載しております。

①ストック・オプションの数

決議年月日	権利確定前(株)					権利確定後(株)				
	前連結会計年度末	付与	失効	権利確定	未確定残	前連結会計年度末	権利確定	権利行使	失効	未行使残
平成19年8月3日	—	—	—	—	—	400	—	—	—	400
平成20年7月30日	—	—	—	—	—	2,700	—	—	—	2,700
平成21年7月31日	—	—	—	—	—	4,600	—	—	—	4,600
平成22年8月4日	—	—	—	—	—	6,800	—	2,100	—	4,700
平成23年8月4日	—	—	—	—	—	10,400	—	4,500	—	5,900
平成24年8月3日	—	—	—	—	—	23,500	—	10,600	—	12,900
平成25年8月2日	—	—	—	—	—	26,000	—	9,200	—	16,800
平成26年8月1日	—	—	—	—	—	22,400	—	—	—	22,400
平成27年8月3日	—	—	—	—	—	13,300	—	—	—	13,300
平成28年8月3日	—	—	—	—	—	17,400	—	—	—	17,400
平成29年8月3日	—	10,500	—	10,500	—	—	10,500	—	—	10,500

②単価情報

決議年月日	権利行使価格(円)	行使時平均株価(円)	付与日における公正な評価単価(円)
平成19年8月3日	1	—	4,390
平成20年7月30日	1	—	3,790
平成21年7月31日	1	—	3,480
平成22年8月4日	1	4,893	2,340
平成23年8月4日	1	4,430	1,960
平成24年8月3日	1	4,192	1,580
平成25年8月2日	1	6,125	1,970
平成26年8月1日	1	—	2,230
平成27年8月3日	1	—	3,260
平成28年8月3日	1	—	2,410
平成29年8月3日	1	—	4,010

3 当連結会計年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

(2) 主な基礎数値及びその見積方法

株価変動性	(注) 1	26.711%
予想残存期間	(注) 2	8年
予想配当	(注) 3	75円/株
無リスク利子率	(注) 4	△0.031%

(注) 1. 過去8年間(平成21年8月21日から平成29年8月21日まで)の各取引日における当社普通株式の普通取引の終値に基づき算定しております。

2. 過去20年間の当社取締役・監査役・執行役員在任期間の平均実績から見積もっております。

3. 平成29年6月23日開催の第121期定時株主総会の決議により、平成29年10月1日付で10株を1株とする株式併合を行っております。平成29年3月期の配当実績を株式併合後に換算しております。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4 スtock・オプションの権利確定数の見積方法

権利確定条件がないため、全て確定としております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
たな卸資産未実現利益	157百万円	170百万円
賞与引当金	349	366
退職給付に係る負債	3,098	3,332
未払事業税・未払事業所税	164	69
減損損失	1,084	684
関係会社投融資評価損失	793	298
たな卸資産処分損	134	127
繰延ヘッジ損失	—	34
繰越欠損金	2,789	2,234
その他有価証券評価差額金	24	—
その他	348	517
繰延税金資産小計	8,944	7,835
評価性引当額	△3,845	△2,867
繰延税金資産合計	5,098	4,968
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	—	△1,150
固定資産圧縮積立金	△354	△349
特別償却準備金	△1	△3
その他	△113	△862
繰延税金負債合計	△469	△2,366
繰延税金資産負債の純額	4,628百万円	2,601百万円

(注) 繰延税金資産負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	1,198百万円	1,095百万円
固定資産－繰延税金資産	3,430	1,506

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.0%	30.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.9	2.0
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.3	0.4
住民税均等割等	2.5	1.5
評価性引当額の増減による影響額	15.1	△4.2
海外子会社の適用税率の差異	△2.7	△1.1
その他	1.8	3.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.9	31.8

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の子会社は、兵庫県その他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸商業施設や賃貸オフィスビル、賃貸住宅を所有しております。これら賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

		前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結貸借対照表計上額	期首残高	20,392	23,779
	期中増減額	3,387	△1,122
	期末残高	23,779	22,657
期末時価		36,796	35,971

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び土地再評価差額金を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な減少額は、減価償却1,279百万円及び売却336百万円であり、主な増加額は住宅開発、賃貸不動産及び商業施設等改修工事に伴う取得5,102百万円であります。
当連結会計年度の主な減少額は、減価償却1,322百万円及び売却447百万円であり、主な増加額は住宅開発及び商業施設等改修工事に伴う取得652百万円であります。
3. 期末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産調査報告書に基づく金額、その他の物件については適切に市場価格を反映していると考えられる評価額や指標を基に自社で合理的な調整を加えて算定した金額であります。

また、賃貸等不動産に関する損益は次のとおりであります。

(単位：百万円)

		前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
連結損益計算書 における金額	営業収益	4,398	4,700
	営業原価	3,250	3,404
	営業利益	1,148	1,296
	売却損益	1,791	223
	その他損益	△4	△27

- (注) 「その他損益」は、除却損等であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別に事業部門を置く組織形態（カンパニー、事業部等）をとっており、各事業部門は取り扱う製品について戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は事業部門を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「機能ソリューション事業」、「アパレル事業」及び「ライフクリエイイト事業」の3つを報告セグメントとしております。

「機能ソリューション事業」は、プラスチックを加工した機能資材、メディカル材料、機械類の製造・販売を行っております。「アパレル事業」は、衣料品及び繊維資材の製造・販売を行っております。「ライフクリエイイト事業」は、商業施設の運営、スポーツクラブの運営、緑化樹木の販売、太陽光発電事業を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	機能ソリューション事業	アパレル事業	ライフクリエイイト事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	50,141	71,384	15,052	136,579	—	136,579
セグメント間の内部 売上高又は振替高	53	244	116	415	△415	—
計	50,195	71,629	15,168	136,994	△415	136,579
セグメント利益	3,468	2,505	1,322	7,296	△3,090	4,206
セグメント資産	47,098	56,838	33,685	137,622	31,837	169,460
その他の項目						
減価償却費	3,105	1,356	1,821	6,283	527	6,811
のれんの償却額	—	50	—	50	—	50
減損損失	2,303	—	—	2,303	—	2,303
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,677	2,110	5,539	9,327	411	9,739

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額△3,090百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、当該費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2)セグメント資産の調整額31,837百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	機能ソリューション事業	アパレル事業	ライフクリ エイト事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	50,746	73,752	16,022	140,521	—	140,521
セグメント間の内部 売上高又は振替高	82	260	100	442	△442	—
計	50,828	74,012	16,122	140,964	△422	140,521
セグメント利益	5,381	2,628	1,386	9,396	△3,157	6,239
セグメント資産	46,637	57,479	34,043	138,160	33,113	171,273
その他の項目						
減価償却費	2,667	1,339	1,880	5,888	566	6,455
のれんの償却額	—	73	—	73	—	73
減損損失	395	202	—	597	—	597
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,991	1,176	1,040	4,208	1,327	5,536

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額△3,157百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、当該費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2)セグメント資産の調整額33,113百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	その他	合計
111,004	25,574	136,579

(注)売上高は顧客の所在地を基礎として分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	その他	合計
59,281	7,990	67,272

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	その他	合計
115,964	24,556	140,521

(注)売上高は顧客の所在地を基礎として分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	その他	合計
57,545	7,308	64,853

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				全社・消去	合計
	機能ソリューション事業	アパレル事業	ライフクリエイト事業	計		
当期償却額	—	50	—	50	—	50
当期末残高	—	645	—	645	—	645

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				全社・消去	合計
	機能ソリューション事業	アパレル事業	ライフクリエイト事業	計		
当期償却額	—	73	—	73	—	73
当期末残高	—	382	—	382	—	382

(注) アパレル事業において、のれんの減損損失189百万円を計上しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1 関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1 関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	5,784.83円	6,084.46円
1株当たり当期純利益	165.95円	189.30円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	164.88円	188.08円

(注) 1. 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益並びに潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

2. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,102	3,486
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	3,102	3,486
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,696	18,417
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(千株)	120	120
(うち新株予約権)(千株)	(120)	(120)

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	108,353	112,129
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	199	987
(うち非支配株主持分)(百万円)	(△88)	(706)
(うち新株予約権)(百万円)	(287)	(281)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	108,153	111,141
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(千株)	18,696	18,266

4. 当連結会計年度より従業員に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。株主資本において自己株式として計上されている「グンゼ従業員持株会専用信託」に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めており、また、1株当たり純資産額の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式数に含めております。

1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は当連結会計年度26千株であり、1株当たり純資産額の算定上、控除した当該自己株式の期末株式数は、当連結会計年度112千株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	8,204	6,501	1.72	—
1年以内に返済予定の長期借入金	6,945	5,077	0.33	—
1年以内に返済予定のリース債務	119	165	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	8,562	9,912	0.21	平成31年2月28日～ 平成34年2月20日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	354	425	—	平成31年4月12日～ 平成36年4月30日
その他有利子負債 商業ペーパー(1年内返済)	4,000	6,000	△0.01	—
預り金(1年内返済)	282	292	0.01	—
合計	28,469	28,374	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の当期末残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しておりますので、記載しておりません。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,070	941	6,900	—
リース債務	152	120	93	52

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

(累計期間)		第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高	(百万円)	33,005	67,792	105,881	140,521
税金等調整前四半期 (当期)純利益	(百万円)	2,581	3,766	6,250	5,275
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,714	2,537	4,183	3,486
1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	92.14	137.13	226.57	189.30

(会計期間)		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失(△)	(円)	92.14	44.74	89.60	△38.12

(注) 当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益又は四半期当たり当期純損失(△)を算定しております。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,057	4,825
受取手形	3,459	※5 3,938
売掛金	※3 19,049	※3 20,697
商品及び製品	17,144	16,682
仕掛品	3,219	3,326
原材料及び貯蔵品	1,679	1,728
短期貸付金	※3 17,345	※3 15,774
繰延税金資産	843	674
その他	※3 1,918	※3 2,316
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	69,711	69,957
固定資産		
有形固定資産		
建物	10,425	10,755
構築物	650	735
機械及び装置	5,010	4,736
車両運搬具	18	13
工具、器具及び備品	1,044	1,031
土地	8,318	7,999
リース資産	—	6
建設仮勘定	576	337
有形固定資産合計	26,044	25,616
無形固定資産		
ソフトウェア	811	913
その他	658	687
無形固定資産合計	1,469	1,600
投資その他の資産		
投資有価証券	18,302	22,224
関係会社株式	18,128	16,877
投資損失引当金	△2,206	△1,556
出資金	249	239
関係会社出資金	6,677	6,843
長期貸付金	※3 1,044	※3 1,376
繰延税金資産	2,524	1,094
その他	※3 2,879	※3 2,164
貸倒引当金	△2,404	△2,007
投資その他の資産合計	45,195	47,258
固定資産合計	72,709	74,475
資産合計	142,421	144,432

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年 3月31日)	当事業年度 (平成30年 3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	850	1,352
買掛金	※3 5,065	※3 4,950
短期借入金	※3 4,217	※3 3,698
コマーシャル・ペーパー	4,000	6,000
1年内返済予定の長期借入金	6,004	1,999
未払金	※3 2,230	※3 1,950
未払費用	※3 2,117	※3 2,322
未払法人税等	1,106	145
預り金	※3 368	※3 462
賞与引当金	792	828
設備関係支払手形	35	34
その他	2,134	918
流動負債合計	28,923	24,663
固定負債		
長期借入金	1,999	5,756
退職給付引当金	1,105	1,608
債務保証損失引当金	2,978	2,395
長期預り保証金	641	667
その他	83	135
固定負債合計	6,808	10,562
負債合計	35,731	35,226
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,071	26,071
資本剰余金		
資本準備金	6,566	6,566
その他資本剰余金	7,431	7,375
資本剰余金合計	13,998	13,942
利益剰余金		
利益準備金	12	12
その他利益剰余金		
特別償却準備金	※1 4	※1 9
固定資産圧縮積立金	※1 837	※1 826
別途積立金	71,240	71,240
繰越利益剰余金	3,460	5,408
利益剰余金合計	75,554	77,496
自己株式	△9,111	△11,152
株主資本合計	106,513	106,358
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△111	2,648
繰延ヘッジ損益	—	△81
評価・換算差額等合計	△111	2,567
新株予約権	287	281
純資産合計	106,689	109,206
負債純資産合計	142,421	144,432

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月 31日)
売上高	106,025	107,660
売上原価	78,514	79,069
売上総利益	27,510	28,590
販売費及び一般管理費	※1 25,527	※1 25,999
営業利益	1,983	2,591
営業外収益		
受取利息	323	319
受取配当金	1,645	1,514
デリバティブ評価益	517	37
その他	1,125	1,281
営業外収益合計	3,611	3,152
営業外費用		
支払利息	50	51
為替差損	223	219
その他	678	616
営業外費用合計	951	887
経常利益	4,642	4,856
特別利益		
固定資産売却益	※2 1,809	※2 329
保険差益	0	—
投資有価証券売却益	312	14
関係会社株式売却益	—	214
その他	241	—
特別利益合計	2,363	558
特別損失		
固定資産除売却損	※3 650	※3 549
関係会社投融資評価損失	2,821	—
減損損失	—	395
その他	13	281
特別損失合計	3,485	1,226
税引前当期純利益	3,521	4,188
法人税、住民税及び事業税	881	378
法人税等調整額	△141	465
法人税等合計	740	844
当期純利益	2,780	3,344

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 特別償却準備金
当期首残高	26,071	6,566	7,432	13,999	12	4
当期変動額						
剰余金の配当						
特別償却準備金の積立						0
固定資産圧縮積立金の取崩						
当期純利益						
自己株式の取得						
自己株式の処分			△1	△1		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	—	—	△1	△1	—	0
当期末残高	26,071	6,566	7,431	13,998	12	4

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
	固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	846	71,240	2,260	74,362	△9,108	105,325
当期変動額						
剰余金の配当			△1,589	△1,589		△1,589
特別償却準備金の積立			△0	—		—
固定資産圧縮積立金の取崩	△9		9	—		—
当期純利益			2,780	2,780		2,780
自己株式の取得					△4	△4
自己株式の処分					2	1
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	△9	—	1,200	1,191	△2	1,188
当期末残高	837	71,240	3,460	75,554	△9,111	106,513

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△1,767	△1,767	246	103,804
当期変動額				
剰余金の配当				△1,589
特別償却準備金の積立				—
固定資産圧縮積立金の取崩				—
当期純利益				2,780
自己株式の取得				△4
自己株式の処分				1
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	1,656	1,656	40	1,697
当期変動額合計	1,656	1,656	40	2,885
当期末残高	△111	△111	287	106,689

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 特別償却準備金
当期首残高	26,071	6,566	7,431	13,998	12	4
当期変動額						
剰余金の配当						
特別償却準備金の積立						4
固定資産圧縮積立金の取崩						
当期純利益						
自己株式の取得						
自己株式の処分			△56	△56		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	—	—	△56	△56	—	4
当期末残高	26,071	6,566	7,375	13,942	12	9

	株主資本					
	利益剰余金				自己株式	株主資本合計
	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
	固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	837	71,240	3,460	75,554	△9,111	106,513
当期変動額						
剰余金の配当			△1,402	△1,402		△1,402
特別償却準備金の積立			△4	—		—
固定資産圧縮積立金の取崩	△10		10	—		—
当期純利益			3,344	3,344		3,344
自己株式の取得					△2,194	△2,194
自己株式の処分					152	96
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	△10	—	1,947	1,942	△2,041	△155
当期末残高	826	71,240	5,408	77,496	△11,152	106,358

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△111	—	△111	287	106,689
当期変動額					
剰余金の配当					△1,402
特別償却準備金の積立					—
固定資産圧縮積立金の取崩					—
当期純利益					3,344
自己株式の取得					△2,194
自己株式の処分					96
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	2,760	△81	2,678	△6	2,672
当期変動額合計	2,760	△81	2,678	△6	2,516
当期末残高	2,648	△81	2,567	281	109,206

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブ等の評価基準及び評価方法

① デリバティブ

時価法

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

① 商品、製品、仕掛品、原材料、貯蔵品

移動平均法に基づく原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

② 機械類の仕掛品

個別法に基づく原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

① リース資産以外の有形固定資産

定額法

② リース資産 (所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産)

定額法 (リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算出する方法)

(2) 無形固定資産

定額法

ただし、自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 投資損失引当金

関係会社株式の価値の減少に備えるため、関係会社の財政状態の実状を勘案した必要額を計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する部分を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。なお、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法は、給付算定式基準によっております。過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理することとしております。数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年間）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

(5) 債務保証損失引当金

関係会社の債務保証に係る損失に備えるため、被保証先の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) ヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約及び通貨スワップについては振当処理によっております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建債権債務、外貨建予定取引
通貨スワップ	借入金

③ ヘッジ方針

取引権限及び取引限度額を定めた責任権限規定に基づき行なっております。

(3) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理と異なっております。

(4) 消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税については税抜方式によっております。

(5) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(追加情報)

従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する注記については、連結財務諸表「注記事項 (追加情報)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(貸借対照表関係)

※1 特別償却準備金及び固定資産圧縮積立金は、租税特別措置法の規定に基づいて計上しております。

2 偶発債務(保証債務)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
保証債務残高 (経営指導念書等を含む)	16,940百万円	13,931百万円

※3 関係会社に対する金銭債権又は金銭債務

区分掲記されたもの以外で当該会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	19,848百万円	18,562百万円
長期金銭債権	3,178	2,661
短期金銭債務	5,439	4,953

4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行3行と協調融資型特定融資枠契約を締結しております。当該契約における借入コミットメントの未実行残高は次の通りであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
借入コミットメントの総額	5,000百万円	5,000百万円
借入実行残高	—	—
差引額	5,000	5,000

※5 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形	一百万円	454百万円

(損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費の主なもののうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合

	前事業年度		当事業年度	
	(自 至	平成28年4月1日 平成29年3月31日)	(自 至	平成29年4月1日 平成30年3月31日)
物流費		7,055百万円		7,311百万円
広告宣伝費		2,123		2,333
給与手当		5,139		5,233
賞与引当金繰入額		375		400
福利厚生費		1,000		1,016
退職給付費用		751		347
減価償却費		413		499
賃借料		479		547
旅費交通費		493		502
研究開発費		2,829		2,785
おおよその割合				
販売費		68%		71%
一般管理費		32%		29%

※2 固定資産売却益の内容

	前事業年度		当事業年度	
	(自 至	平成28年4月1日 平成29年3月31日)	(自 至	平成29年4月1日 平成30年3月31日)
建物		10百万円		320百万円
構築物		10		3
機械及び装置		67		4
車両運搬具		0		0
工具、器具及び備品		4		0
土地		1,717		—
計		1,809		329

※3 固定資産除売却損の内容

	前事業年度		当事業年度	
	(自 至	平成28年4月1日 平成29年3月31日)	(自 至	平成29年4月1日 平成30年3月31日)
建物		558百万円		362百万円
構築物		45		1
機械及び装置		42		31
車両運搬具		0		0
工具、器具及び備品		1		0
土地		—		153
無形固定資産		3		—
計		650		549

4 関係会社との取引

	前事業年度		当事業年度	
	(自 至	平成28年4月1日 平成29年3月31日)	(自 至	平成29年4月1日 平成30年3月31日)
売上高		13,199百万円		12,214百万円
仕入高		40,195		39,457
営業取引以外の取引高		2,648		2,480

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額
(単位：百万円)

区分	平成29年 3月31日	平成30年 3月31日
子会社株式	16,881	16,179
関連会社株式	1,247	698
計	18,128	16,877

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものがあります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(繰延税金資産)		
賞与引当金	237百万円	246百万円
退職給付引当金	2,040	2,305
関係会社投融資評価損失	3,353	2,857
減損損失	160	233
たな卸資産処分損	130	119
未払事業税・未払事業所税	132	31
繰越欠損金	190	38
その他有価証券評価差額金	47	—
その他	597	438
繰延税金資産小計	6,890	6,271
評価性引当額	△2,410	△2,271
繰延税金資産合計	4,479	3,999
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	—	△1,121
固定資産圧縮積立金	△354	△349
特別償却準備金	△1	△3
その他	△755	△755
繰延税金負債合計	△1,111	△2,230
繰延税金資産負債の純額	3,368	1,769

(注) 繰延税金資産負債の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
流動資産 — 繰延税金資産	843百万円	674百万円
固定資産 — 繰延税金資産	2,524	1,094

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.0%	30.0%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	6.8	5.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△14.1	△12.3
住民税均等割等	2.8	2.5
その他	△4.5	△5.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.0	20.1

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)
有形固定資産						
建物	10,425	1,433	343 (244)	759	10,755	29,987
構築物	650	161	6 (4)	70	735	3,315
機械及び装置	5,010	974	174 (145)	1,073	4,736	44,576
車両運搬具	18	2	0	7	13	258
工具、器具及び備品	1,044	266	9 (0)	269	1,031	3,844
土地	8,318	—	318	—	7,999	—
リース資産	—	7	—	1	6	1
建設仮勘定	576	2,599	2,838	—	337	—
有形固定資産計	26,044	5,445	3,690	2,182	25,616	81,983
無形固定資産						
のれん	427	—	—	45	382	—
借地権	62	—	—	—	62	—
工業所有権	0	0	—	0	1	—
施設利用権	46	0	0	0	46	—
ソフトウェア	811	390	12	276	913	—
建設仮勘定	120	466	391	—	194	—
無形固定資産計	1,469	857	405	321	1,600	—

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。(百万円)

 メディカル事業部：メディカル材料生産設備増強

 建物579、構築物7、機械及び装置48、工具・器具及び備品43、ソフトウェア32

 プラスチックカンパニー：プラスチックフィルム生産設備増強

 建物36、構築物14、機械及び装置191、車両運搬具2、工具・器具及び備品41、ソフトウェア5

 エンブラ事業部：エンジニアプラスチック生産設備増強

 建物79、構築物6、機械及び装置177、工具・器具及び備品11

 アパレルカンパニー：インナーウェア、レグウェア生産設備増強

 建物92、構築物4、機械及び装置262、工具・器具及び備品10、ソフトウェア131

 本社：建物574、構築物105、工具・器具及び備品87、ソフトウェア169

 研究開発部：建物51、構築物20、機械及び装置252、工具・器具及び備品64

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。(百万円)

 外部賃貸倉庫売却：建物93、構築物1、機械及び装置1、土地318

 遊休資産除却：建物3、機械及び装置13

3. 当期減少額の()は内数で、当期の減損損失計上額であります。

4. 当期末減価償却累計額又は償却累計額には、減損損失累計額を含んでおります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	2,410	228	625	2,013
投資損失引当金	2,206	—	650	1,556
債務保証損失引当金	2,978	91	674	2,395
賞与引当金	792	828	792	828

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行(株) 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行(株)
取次所	—
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.gunze.co.jp
株主に対する特典	9月末、3月末の株主名簿において単元株（100株）以上保有の株主様に下記の優待を行います。 ①9月末 当社品の贈呈又はグンゼオンラインショップで利用できるクーポン券を贈呈いたします。 ②9月末、3月末 通販カタログ掲載商品の30%を優待割引いたします。

(注) 当社定款には、単元未満株式について、次の権利以外の権利を行使することができない旨を定めています。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | |
|-----------------------------------|---|-------------------------------|---------------------------|
| (1) 有価証券報告書
及びその添付書類並びに
確認書 | 事業年度
(第121期) | 自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日 | 平成29年6月26日
関東財務局長に提出。 |
| (2) 内部統制報告書 | 事業年度
(第121期) | 自 平成28年4月1日
至 平成29年3月31日 | 平成29年6月26日
関東財務局長に提出。 |
| (3) 四半期報告書
及び確認書 | (第122期第1四半期) | 自 平成29年4月1日
至 平成29年6月30日 | 平成29年8月9日
関東財務局長に提出。 |
| | (第122期第2四半期) | 自 平成29年7月1日
至 平成29年9月30日 | 平成29年11月13日
関東財務局長に提出。 |
| | (第122期第3四半期) | 自 平成29年10月1日
至 平成29年12月31日 | 平成30年2月13日
関東財務局長に提出。 |
| (4) 臨時報告書 | 金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づくもの | | 平成29年6月29日
関東財務局長に提出。 |
| (5) 自己株券買付状況報告書 | 平成29年7月11日、平成29年8月3日、平成30年6月6日 | | 関東財務局長に提出。 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月25日

グンゼ株式会社
取締役会 御中

協立監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 南部 敏 幸 ㊞

業務執行社員 公認会計士 公 江 正 典 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているグンゼ株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、グンゼ株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、グンゼ株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、グンゼ株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年6月25日

グンゼ株式会社
取締役会 御中

協立監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 南部 敏 幸 ㊞

業務執行社員 公認会計士 公 江 正 典 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているグンゼ株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第122期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、グンゼ株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- ※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月27日
【会社名】	グンゼ株式会社
【英訳名】	GUNZE LIMITED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 廣地 厚
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役 財務経理部長 熊田 誠
【本店の所在の場所】	京都府綾部市青野町膳所1番地 (注)上記は登記上の本店所在地であり、主たる本社業務は下記で行っております。 (大阪本社) 大阪市北区梅田二丁目5番25号(ハービスOSAKAオフィスタワー) (06)6348-1312
【縦覧に供する場所】	グンゼ株式会社 大阪本社 (大阪市北区梅田二丁目5番25号(ハービスOSAKAオフィスタワー)) グンゼ株式会社 東京支社 (東京都中央区日本橋二丁目10番4号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) (注)グンゼ株式会社大阪本社及び東京支社は、法定の縦覧場所ではありませんが投資家の便宜のため縦覧に供しております。

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 廣地 厚及び当社最高財務責任者 熊田 誠は、当社の第122期(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。